2007～2008 年度

国際ロータリー第 2640 地区第 1 組

INTERCITY MEETING

インターシティ　ミーティング

日　時：2008/ 2/16（土）

場　所：紀南文化会館　４階

参加クラブ

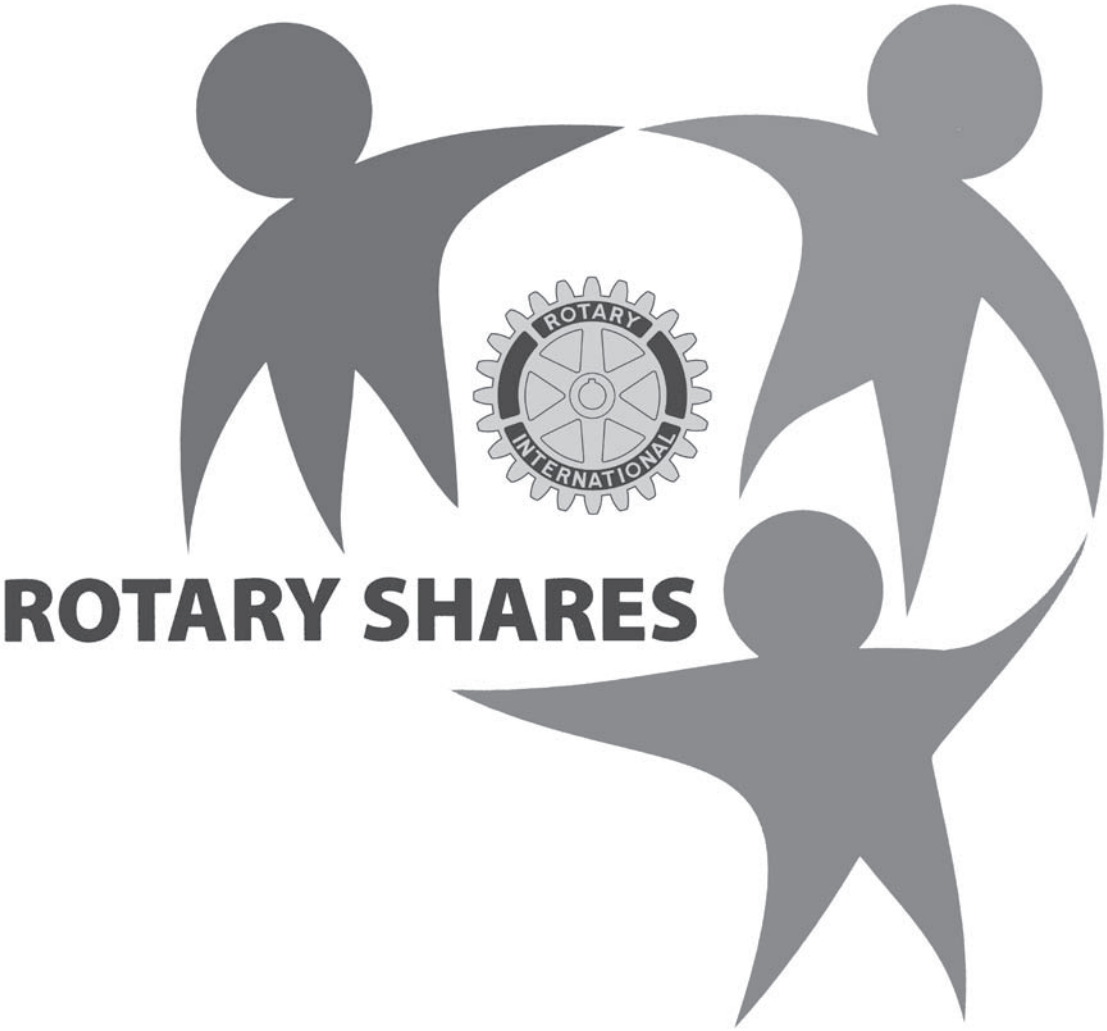
新　宮R.C.　那智勝浦R.C.　串　本R.C.

白　浜R.C.　田辺東R.C.　田辺はまゆうR.C.

田　辺R.C.

ホストクラブ

田辺ロータリークラブ



「ロータリーは分かちあいの心」
―ROTARY SHARES―

2007～2008 年度　RI会長

ウィルフリッド　J・ウィルキンソン

2007～2008 年度

国際ロータリー第 2640 地区第 1 組

目　　次

テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
来賓・地区役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
I.M.プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
開会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
歓迎の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
祝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
ガバナー挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
ゼネラルリーダー挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
参加クラブ・I.M.出席報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

《部門別会議》

新会員の集い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
ロータリー財団部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
米山奨学部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
情報・規定関係部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

《本　会　議》

基調講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
事例発表とフリートーキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
次回ホストクラブ紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
次回ホストクラブ会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
I.M.スナップ写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
出席登録者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
I.M.委員会構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61

INTERCITY MEETING

テーマ

「ロータリーと地域」

役　　員	（敬称略）
国際ロータリー第2640地区ガバナー	平原　祥彰
ゼネラルリーダー　国際ロータリー第2640地区パストガバナー	三軒　久義
Ｉ．Ｍ．委員長　田辺ロータリークラブ	古久保和彦
Ｉ．Ｍ．副委員長　田辺ロータリークラブ	植田　英明

基調講演

「高校野球の歩み」

講師　脇村　春夫　（財団法人日本高等学校野球連盟会長）

事例発表とフリートーキング

「ロータリーと地域」

来　　賓

（敬称略）

田　辺　市　長		真砂　充敏
国際ロータリー第2640地区	ガバナー	平原　祥彰
国際ロータリー第2640地区	パストガバナー	三軒　久義
国際ロータリー第2640地区	パストガバナー	中島治一郎
国際ロータリー第2640地区	パストガバナー	成川　守彦
国際ロータリー第2640地区	パストガバナー	前窪　貫志
国際ロータリー第2640地区	パストガバナー	平尾　寧章
国際ロータリー第2640地区	ガバナーエレクト	勝野　露観
国際ロータリー第2640地区	ガバナーノミニー	村上　有司
国際ロータリー第2640地区	ガバナー補佐	泉　房次朗
国際ロータリー第2640地区	副代表幹事	金田　光央
国際ロータリー第2640地区	情報･規定委員会アドバイザー補佐	上野山英樹
国際ロータリー第2640地区	ロータリー財団部門カウンセラー補佐	岩本　行弘
国際ロータリー第2640地区	ロータリー財団奨学金委員長	吉野　惣太
国際ロータリー第2640地区	財団研究グループ交換等委員長	坂本　順一
国際ロータリー第2640地区	財団学友委員長	川端　健夫
国際ロータリー第2640地区	米山奨学部門カウンセラー補佐	松下　光春
国際ロータリー第2640地区	米山奨学事業委員長	米田眞理子
日置川プロバスクラブ　会長		寺岡　浩義
龍神プロバスクラブ　会長		古久保克巳

2007～2008年度国際ロータリー第2640地区　第1組　プログラム

第1部（事前会議）

時　　間	事　　項	担　　当・その他
11：00～11：30	登録受付	
11：30～12：00	昼　　食	
12：00～13：00	新入会員の集い（入会5年未満） RCの歴史	カウンセラー　平原　祥彰 リーダー　成川　守彦 司会　新井　康司 セクレタリー　朱　　洋子
	ロータリー財団部門	カウンセラー　中島治一郎 〃　補佐　岩本　行弘 リーダー　吉野　惣太 財団研究グループ交換等委員長　坂本　順一 財団学友委員長　川端　健夫 司会　小川　豊介 セクレタリー　稲田　静雄
	米山奨学部門	カウンセラー　前窪　貫志 〃　補佐　松下　光春 リーダー　米田眞理子 司会　津村　寛司 セクレタリー　竹本　達也
	情報・規定関係部門	カウンセラー　中村　幸吉 リーダー　上野山英樹 司会　村上　有司 セクレタリー　市木栄之助

第2部（本会議）

12：00～13：00	登録受付・昼　　食	
12：00	開　　場	
13：10分［30分］ （10分）	開会式 点鐘 君が代・奉仕の理想 開会の言葉 歓迎の言葉 来賓・地区役員紹介 祝辞 ガバナー挨拶 ゼネラルリーダー挨拶 参加クラブ紹介 出席報告	司会　I.M.S.A.A.　小川　豊介 ホストクラブ会長　荷稲　　實 ソングリーダー　田上　雅信 I.M.委員長　古久保和彦 ホストクラブ会長　荷稲　　實 I.M.委員長　古久保和彦 田辺市長　真砂　充敏 ガバナー　平原　祥彰 ゼネラルリーダー　三軒　久義 I.M.S.A.A.　小川　豊介 登録委員長　長井　保夫
13：40分［70分］	講演会　　講師紹介 基調講演	I.M.副S.A.A.　古谷　典子 『高校野球の歩み』 講師：脇村　春夫 氏 （財団法人日本高等学校野球連盟会長）
14：50～15：00	休　　憩	
15：00［90分］ まとめ	事例発表とフリートーキング 『ロータリーと地域』	司会　I.M.副S.A.A.　古谷　典子 コーディネーター　渡部　正義 発表者　新宮RC　植　　稔 那智勝浦RC　森岡　一朗 串本RC　矢倉甚兵衛 白浜RC　片田　和雄 田辺はまゆうRC　坂口　富茂 田辺東RC　谷峯　正美 田辺RC　新藤　整市 ガバナー　平原　祥彰
（10分） 16：30［30分］ 17：00	閉会式 総評 謝辞 次回ホストクラブ紹介 次回ホストクラブ会長挨拶 閉会の言葉 ソング　手に手つないで 点鐘 閉会	司会　I.M.S.A.A.　小川　豊介 ゼネラルリーダー　三軒　久義 ガバナー　平原　祥彰 ホストクラブ会長　荷稲　　實 次回ホストクラブ（田辺東RC）会長　愛須　勝章 I.M.副委員長　植田　英明 ソングリーダー　田上　雅信 ホストクラブ会長　荷稲　　實

開会の言葉

I.M. 委員長　古久保和彦

国際ロータリー２６４０地区第１組I.M. 委員長を仰せつかっている古久保でございます。どうぞよろしくお願いします。

本日はお忙しい中、平原ガバナー、三軒ゼネラルリーダーはじめ地区パストガバナー、地区役員の方々、特に御公務多忙な中、田辺市長様にご列席いただきまして厚くお礼申し上げます。また、公私ともお忙しい中会員の皆様には多数ご出席いただきありがとうございます。田辺クラブ一同心から歓迎いたします。我々田辺ロータリーは三軒ゼネラルリーダーご指導のもと準備を進めてまいりました。準備不足の点も多々あろうかと思いますが、皆様の御友情でお許しをいただきたく思います。

本日の事前会議では財団部門、米山奨学部門、情報部門、新会員の集いと各リーダーのもと活発な意見交換が行われたと思います。第２部の本会議ではロータリーと地域というテーマを決めさせていただき、各クラブより事前発表とフリートーキングを行いたいと思います。基調講演には、選抜高校野球大会が間近になり大変お忙しい中、高校野球連盟の脇村会長にお越しいただき講演をいただくことになっております。第１部では高校野球の歩み、第２部では和歌山県高校野球の発展というテーマでお話いただくことになっております。

どうぞ最後までごゆっくりご歓談いただき友情の輪を広げ有意義なI.M. であることをお願い申し上げ開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

歓迎の言葉

ホストクラブ会長　荷稲　實

ホストクラブを代表し一言歓迎のご挨拶を申し上げます。

本日は国際ロータリー２６４０地区第１組のインターシティーミーティングの開催にあたり公私大変お忙しいところ来賓の真砂充敏田辺市長様はじめ、平原祥彰ガバナー、三軒久義ゼネラルリーダーをはじめとする国際ロータリー第２６４０地区役員の皆様、パストガバナーの方々、第１組のロータリアンの方々のご参加をいただき本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げるとともに心より歓迎申し上げます。

せっかく年１回近隣クラブが相集い、より豊かなロータリーの精神を極め、親睦を深める恰好の機会に参加していただいた皆様に満足していただけるようにと古久保I.M. 委員長をはじめとするメンバーが一生懸命取り組んでまいりました。しかしながら、時間的な制約もあり果たして皆様方のご期待に添えるかどうか心配しております。不行き届きの際はロータリーの友情の精神に免じてご容赦願います。

皆様のご協力のもと実り多き会合でありますように心に念じて歓迎の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

祝　　辞

田辺市長　真砂　充敏

ご紹介をいただきました田辺市長の真砂でございます。

本日ここに紀南地方の７ロータリークラブの皆様方が一同に介されて、国際ロータリー第２６４０地区第１組のインターシティーミーティングが、今年は田辺ロータリークラブがホスト役ということで、大勢のご参加のもとに盛大に開催をされますこと、まず心からお喜びを申し上げます。また日頃ロータリークラブの皆様方にはそれぞれの地域で、それぞれのお立場でロータリークラブの旨とする社会奉仕の精神に基づき、地域の福祉の向上等、ご尽力を賜っておりますことを心から敬意を表しますとともに、行政を預かる１人といたしまして皆様方にこの席をお借りし、改めて厚くお礼を申し上げます。

田辺市も早いもので合併をいたしまして、この春で丸３年を迎えようとしております。厳しい地方自治行政に耐えうる自治体を作ろうと、そして合併の効果を少しでも早くできるだけ具体的に市民の皆様にお示しをしたいという思いで行政改革を進めながら地域の特性をいかして新しいまちづくりに努めさせていただいているところでございます。ただしかし昨今の国、地方をめぐる経済情勢、また行政面でも地方分権の推進などさまざまな点で厳しさがございます。くわえて、都市と地方の格差の問題、そして当地域ではまだまだ低迷が続くこの景気の問題、そういういろいろな課題を持ったまま、今新しいまちづくりをということでがんばっているわけです。この紀南地方、特に和歌山県のこの地域につきましては、自然、歴史、文化そういういろいろな資源に恵まれている、それを活かして地方の活性化のために我々も尚一層努力をしていきたいと思っています。

いずれにいたしましても行政だけではいかんともしがたい課題がたくさんございます。そういう意味では、市民の皆様をはじめ特にロータリークラブの皆様方には様々な点でお世話になりご協力をいただかなければならない点がたくさんございます。どうぞ皆様方にはこれからも尚一層のご指導ご協力を賜りますようによろしくお願いを申し上げます。

本日はこの後、高野連の脇村会長様から高校野球の歩みと題した基調講演、そして各ロータリークラブのいろいろな活動の発表等々、皆様方の親睦を深められ、より一層ロータリークラブが前進されるそういう機会になることと存じます。どうか今日のこのミーティングが実り多いものになりますように心から祈念を申し上げる次第でございます。

あとになりましたけれども、各ロータリークラブの今後益々の充実発展、それから、本席にお集まりの皆様方のさらなるご健勝、ご活躍、心より祈念を申し上げまして一言ご挨拶とさせていただきます。本日はまことにおめでとうございます。

ガバナー挨拶

第2640地区ガバナー　平原　祥彰

I.M.は近隣のクラブのメンバーが集まって友情を深くし、当面している我々の問題をしっかり話し合って元気になって、それぞれのクラブに帰って行って明日からしっかりやろうという為に開かれるのでございます。

午前中、私は新入会員の部門に出席をさせていただきました。我々の歴史について成川パストガバナーからいろいろ詳しくお話を聞いて1時間を過ごしたのでございます。入会をしまして日が経ってきますと当初のように熱心に勉強をしなくなります。ロータリーというのはこんなもんやなと、いうことになってしまいましてロータリー情報が古くなる。どんどん入れてどんどん発信しなきゃいけないのですが、どうもニュースが古くなりますので、こういう機会にたくさんのロータリー情報を仕入れていただき、明日からクラブの活動、地域の活動に活かしていただく、そういう有効で適切な時間にしてほしいと思うわけでございます。田辺ロータリークラブはそこらあたりを心得て一生懸命に1年もかけて準備をしてくれました。本日を迎えました。彼らの苦労に対しましてガバナーとして心からお礼を申し上げたいと思います。

この後、高等学校の野球のお話を聞かせていただけるとのこと、大変楽しみでございます。皆様とともに、今年の和歌山の代表は智弁でしたか、彼らの大活躍を期待したいと思います。昨日でしたか、一昨日でしたか、堺でこの地区のクラブに在籍をしている女性のメンバーのクラブを横断する親睦の会を作ってほしいとお願いをいたしまして、大阪地区のロータリークラブの女性メンバーの親睦会の設立準備の委員会が開かれました。５０名余りの方々がお集まりをいただきました。元気のいいところで、女性パワーをつくづくと、しみじみとですか、感じて帰ってまいりました。男女雇用機会均等法ができました。あらゆる分野に女性が進出をいたしまして、専門職、上級管理職お医者さん弁護士さん、もちろん企業のオーナーもたくさんおいでていました。昔は、女社長とか女なんとかと必ず前についていたのですが、この頃はそういうことがなくなりまして、若い女性は、私たちが目指していくモデル、そういう見本になるような素晴らしい活動をしてくれる女性がもっとたくさん現れてほしい、そう皆さんおっしゃいます。ロータリーも男ばかりじゃなくて優れた感覚、感性、そういう女性のメンバーもたくさん迎え入れまして、バランスのとれた地域に対する奉仕をしていけたら、それが自然ではないかと考えておりまして、是非ともこの女性の会がうまくいきますようにお世話していただく方々に旁々、お願いしますと申し上げています。

我々はどんないい事をいたしましても、新しいメンバーを迎え入れてどんどん新しい血を入れて活動していきませんとやがて消滅ということになります。これは宿命でございまして、３００年も生きている人はおりませんので、新しいメンバーを迎え入れるということは我々にとって至上命題であります。皆さんとともにこの事に精一杯努力をしてあらゆる機会にこのことを追求していきたいと思っています。

本日、一日有効に有意義にお過ごしいただきますようにせつにお願いをしたいと思います。簡単でございますがご挨拶にいたします。ありがとうございました。

ゼネラルリーダー挨拶

ゼネラルリーダー　三軒　久義

ゼネラルリーダーを承っております、ガバナーの三軒でございます。昨年度の公式訪問で大変お世話になったなつかしいお顔にたくさんお会いできまして本当にうれしく思っております。

今日は席が埋まっております。お聞きしますと、今までのI.M.ではあまり埋まっていなかったということなので、今日は大変うれしい思いでございます。ゼネラルリーダーとしては本当は何もいたしておりません。古久保I.M.委員長さんがおっしゃいましたが、私は何もリーダーの役目を果たしておりませんが私がいなくてもこのように立派にできるということはたぶん後で証明されるだろうと思っております。

姉歯建築士をはじめとして、赤福、それから船場吉兆連々の事件で我々ロータリアンにそぐわないというか、我々ロータリアンとしてははずかしいような出来事がたくさん出てまいりました。

今日の会議でそういういろんな奉仕活動を通して我々の職業倫理が向上するようにそういう一端ともなれば大変うれしいかと思います。今日は後で講評させていただきますがご出席誠にありがとうございます。どうか盛会でありますことをお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

参加クラブ・Ｉ．Ｍ．出席報告

登録委員長　長井保夫

クラブ名	会員数	I.M.参加者
新宮ロータリークラブ	57名	32名
那智勝浦ロータリークラブ	20名	8名
串本ロータリークラブ	10名	5名
白浜ロータリークラブ	17名	13名
田辺はまゆうロータリークラブ	35名	26名
田辺東ロータリークラブ	51名	39名
田辺ロータリークラブ	86名	86名
合計	276名	209名

新 会 員 の 集 い

【出席者】

カウンセラー	平原　祥彰
リーダー	成川　守彦
司会	新井　康司
セクレタリー	朱　　洋子

＜成川リーダー＞

第 1 組　I.M. 第 1 部事前会議ということで話させていただきます。

さて、ロータリーとは何でしょう？ RI のウエブサイトには「ロータリーは世界中の事業及び専門職務のリーダーからなる世界規模の組織で、人道的奉仕活動を行い職業における高い道徳基準を奨励し、世界中で親善や平和を築くための助力をしています。」と書かれています。200 カ国以上、32,700 以上のクラブ数。会員はその地域の事業や専門職に従事する男女で、非政治的、非宗教的な人道的組織で 1905 年に創立されました。

ロータリー財団は皆様方の自発的寄付で、これまでに 13 億ドル以上集まっております。これらのお金は、1985 年から 20 年以上ロータリーが取り組んでいます「ポリオ撲滅運動（ポリオのない世界を目指して）」などに使っています。ロータリーが中心となって各国政府、ユニセフ、国連を交えて活動しております。これまでに 20 億人近い世界中の子供に予防接種をしてきたわけです。現在 99％減少まで来ていますが、あと一歩というところでとまっています。いわゆる紛争地域です。そういう所まで行きたいがなかなか行けないんです。こういう所にこそポリオワクチンを接種にいかなければならないのに、できないのが悔しいですね。

さらに財団では「教育」にも力をいれています。識字率向上や国際親善奨学生。世界平和フェローシップは現在 6 大学 60 名です。

私は、ロータリーを短い言葉で表現すると何だろうと、クラブ情報委員長さんに聞いたことがあります。ある方は「ロータリーは改良運動であり、人類に対する愛情である。」「自己修練の場である」と言いました。それから「思いやりと助け合いの精神をお互いに楽しく磨きあい、それを実行していこうとする団体だ。」「奉仕の心を持って地域に密着した明るい社会を創るため、志を同じくするものが集まる団体である」とも言いました。最近はちょっとロータリーも方向が変わりつつあります。皆さんはどう表現されますか？同じ答えは 1 つもないかも知れません。では共通点はないのでしょうか？いいえ、あるんですね。それは「善意」です。ロータリーの基調は「善意」なんですね。善意がなくなればロータリーではありません。

さて、皆さんご存知のようにロータリークラブは 1905 年に創立されました。この

100年を振り返ってみますとロータリーの歴史の中で３つの危機がありました。ポール・ハリスが３代目の会長に就任した時に起こった、ポール・ハリスの会長辞任が第１の危機。そして第２の危機がロータリーの基本理念と奉仕の哲学が要約された「決議23-34」が誕生した時。さらに第３の危機は戦争で、この時33カ国のロータリークラブの解散がありました。

ポール･ハリスは「ロータリーへの私の道」という本の中に、自身の生い立ちについて書いています。お父さんが事業に失敗して、バーモントの小さな村でおじいさんとおばあさんに育てられたのです。そこで精神的にも非常によい環境のもと恵まれた生活を送った彼は、騙された方が馬鹿であるといわれるシカゴに移ってからは孤独感に悩まされたといいます。その孤独感の中作ったのがロータリークラブなのです。ここに原点があるように思います。ロータリーがメンバーをよりよき人間へと導いていく道の１つは、彼の心の中に宿る「少年」を失わないこと。誰の心の中にも少年は宿っている。善良な人たちの心の中には必ず少年があって、汚れを知らず偏見もなく寛容であり、強い熱意と友好的な気持ちを持っていると。こういうふうに表現しています。さらに、世界の大河でさえその源泉は密やかであり小さな泉の湧き水やわずかな雪解け水に始まる。このわずかな水の流れが野山を下るうちに触れるもの全てに新たな生命を与える。そのうちに小川がいくつも合流して一つの河となり、より確かで力強い流れになると書いています。ロータリーも初めは本当に小さな湧き水だったのですが、今は本当に大河になりました。

1905年２月23日、冷たい雪まじりのシカゴで、ポールはシルベスター・シールというお客さんである友人と夕食後、このクラブの結成の話をしました。ポールは、私は実業家のクラブについてずっと考え続けていました。それはシカゴにある今までの社交団体と全く違った新しい種類のものなんです。シールはそれはどんなふうに違うのか？と尋ねました。知己と友情、知り合いと友情を大切にしたいと、その中で会員同志がお互いのビジネスを伸ばしたらいいと考えている。たとえば二人の会員が同じ職業を持つことはできないと決めればいいでしょう。そうすればクラブの中には競争相手がなくなるから会員同志の中でなら信用によって必ずお金も払ってもらえるし、取引も増えてお互いに発展することができると。相互扶助ですね。最初はこういう考えでスタートしたんです。この話にシールも賛成して、ガスターバス・ローアの事務所にいたハイラム・ショーレと共に４人で初めての会を開いたんです。
スタートの頃はもちろん、決して高い学歴の持ち主だけの集まりではなかったのです。平凡な商店主、中小企業経営者、この中で大学を出ていたのはポール・ハリスぐらいです。ただ日本ではエリートの方が多いですね。日本に最初にロータリークラブを作った米山梅吉さんと福島喜三次さんが超エリートだったので、そういう集まりになったのでしょうね。アメリカは、「ロータリー運動を通じてエリートになった」という感じです。１業種１人、定例の会合、２月に発足して10月には30名、１年経つと80名と、次々に入りたいという人が増えていきました。

１年を経過した1906年１月、定款細則が出来ました。その内容は第１条　会員の業務上の利益を振興すること。第２条　社交クラブに伴う親睦・その他望ましい事項を振興すること。これだけだったのです。定款ができて間もなく新会員勧誘の際誘われたドナルド・カーターが「私は自分だけの利益を追求するだけのクラブには入りたくない。相手の立場を重んじるという所を大事にしなければならない」と言ったのです。そして第３条ができました。「シカゴ市の利益を増進し市民の中に市に対する誇りと忠誠心を普及すること」というのが入ったのです。ここで初めて「人の為に」というほんの小さな一滴がこぼれたのです。1907年、シカゴクラブは公衆便所を寄付したり、恵まれない子を助けて貧民街の住民に食べ物を与えたのです。社会奉仕の始まりです。

1908年、チェスリー･ペリーとアーサー･シェルドンが入会しました。ポール・ハリスはロータリーの設計者といわれ、チェスリー・ペリーは建設者といわれています。そしてアーサー・シェルドンは職業奉仕の

理念を導入したことからロータリーの精神的骨格を作ったといわれています。当時は事業を発展させるために入会したんだという人と奉仕活動こそがロータリーだという人との間で衝突が多かったのです。そんなふうに雰囲気が悪くなるとハリー・ラグラスは「さあ、みんなで歌をうたおう」といって歌ったんです。それがロータリーソングの始まりです。

1908年シカゴクラブは、奉仕理念の提唱とクラブの拡大に努めた結果、クラブ例会は荒れ始め、クラブ親睦は失われ、クラブは崩壊寸前になりました。この第1の危機に対して、ポール・ハリスは会長を辞任し、チェスリー・ペリーと共に奉仕理念の提唱とロータリーの拡大をクラブとは別枠の団体でやることにしました。

地方、クラブはサンフランシスコ、オークランド、ロサンゼルス、シアトル、ニューヨークとどんどん増えていきました。そこで1910年、16クラブをシカゴに集めて、初めての全米ロータリークラブ連合会を開催しました。RIの始まりです。会長はポール・ハリス、幹事はチェスリー・ペリーです。この年にカナダのウイニペッグにロータリークラブが誕生しました。ロータリーが国境を越えた年です。この会合でアーサー・シェルドンは「20世紀の正しい経営学は協力することであり、他人に利益をもたらすことである、同僚に対して最も奉仕したものが最も報われる "He profits most who serves his fellows best."」とスピーチをしました。でもこれは会員の中ではあまりよい反応ではなかったようです。

翌年、全米ロータリークラブ連合会にアーサー・シェルドンは出席できなかったので、チェリス・ペリーがアーサーの報告書を代読するのです。その内容は「経営の科学とは奉仕の科学である」「経営学は、"He profits most who serves best." に基づくサービス学である。いかなる団体の成功も、そのサービスに従事した人々の成功の集積である。広い意味で、すべての人はセールスマンである。それぞれの人は、それがサービスか商品かにかかわらず、売るべきものを持っている。広い意味における人生の成功は、幸運とか機会とかいうものではなく、精神的、道徳的、物質的、精神的な自然の法則によって支配されている。これらの法則をすべてを調和させる活動こそ、最高の成功を意味する。宇宙を認識するということは、民族の連帯の理解、すべての物の単一性、人間の兄弟愛の現実などという一般的な感覚を開発することであり、磨かれた人は、ビジネスやいかなる場所においても、"He profits most who serves best." でなければならないという事実の実体に気付くのである。」・・・朗読が終わると、割れんばかりの大喝采で、"He profits most who serves best." がロータリーの標語に採択されました。

同じ年に、同じ会で、創立まもないミネアポリス・ロータリークラブ会長のベンジャミン・フランクリン・コリンズがスピーチをしました。「ロータリークラブの組織に属するということこそ、正しい一歩を踏み出すことといえます。自分の利益だけを目的に、ロータリークラブに参加しようとするならばその選択は間違っています。ロータリークラブとはそのような場所ではないのです。ミネアポリスRCの創設以来、信念として持ち続けられ忠実に守られ続けてきた理念、それは「無我の奉仕」("Service, not self")なのです。」

前日のアーサー・フレデリック・シェルドンの書簡に感激して、"He profits most who serves best." をモットーとして採択した直後でしたが、この "Service, not self" もこれに劣らずすばらしいものだということで、モットーに採択されました。

当時、「自分のために」ということだけを考え、「仲間のために」ということを考えない時代背景の中で、「自分のためだけではなく、仲間のために」という考えを実施したと思われます。シェルドンの "He profits most who serves his fellows best." と同じ考えだと思います。1921年コリンズの死後、"Service, above self" が一般に用いられるようになりました。

前日のアーサー・フレデリック・シェルドンの書簡に感激して、"He profits most who serves best." をモットーとして採択した直後でしたが、この "Service, not self" もこれに劣らずすばらしいものだということで、モットーに採択されました。

その後、第2の危機が起こります。そ

の結果が 1923 年の決議 34 番、いわゆる「23-34」です。エドガー・アレンという人が社会奉仕を実践するためにロータリークラブに入ったのです。身体障害者に対する奉仕活動を非常に熱心にされた方なんですが、これが全米に広がりました。ここに「奉仕の心を形成」とする理論派と「奉仕活動の実践」という実践派とで対立がおこったのです。そして RI がセントルイスの国際大会で「年間 1 ドル会員が提供してください。事務局が集めます」と決議を出したんです。国際身体障害協会の仕事をロータリーが代行すると。これに対してシカゴロータリークラブをはじめとして反対が出ました。援助することに反対したのではなく。我々が決定することを RI が決めた、ということに反対し一大キャンペーンをしたのです。

ロータリークラブの手続き要覧 23-34 を皆さんももう一度読んでみてください。ロータリーの諸活動について詳しく書いています。RI の役割、クラブの役割について読んでください。「ロータリーは基本的に 1 つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。」と書いています。

第 3 の危機は戦争です、と先ほど言いました。第 2 次世界大戦の時、33 カ国、484 クラブが解散しました。日本でもロータリアンはスパイだとか売国奴とか言われ軍部から圧力がありました。これに対して、我々は愛国者であるとし、例会場に国旗を掲げ君が代を歌ったのです。それでも軍部からの締め付けは大きく国内 37RC が脱会しました。そして 36 クラブは七曜倶楽部に移行して、東京ロータリークラブは東京水曜倶楽部、和歌山ロータリークラブは和歌山火曜會というように名前を変えて細々と続けていたのです。

最近の動きとして、ニューモデルクラブというのがあります。191 のクラブがパイロットクラブをやりました。新しいクラブや既存のクラブも含めてです。1 業種多数会員、2 週間に 1 回の例会、中には月に 1 回の例会、これがニューモデルクラブです。これらは 2007 年の 6 月に終わりました。試験のプログラムは一応期限が決まって終わるんです。7 月から「例会頻度試験的プロジェクト」がスタートしました。例会頻度を変更することで効果的なクラブの 4 つの要素とクラブの全般的な会員構成という点で、ロータリークラブの全般的な効果や成果にどれだけ影響をもたらすかを評価する。これには 200 ロータリークラブが参加、日本からは 6 クラブが参加しています。大半が月 2 回の例会、夏の間は例会が行われないというものです。ただ週 1 回の例会頻度をさらに増やしたクラブもあるそうです。

それからサイバーロータリークラブ。これはインターネットを活用したものです。特徴は毎週の例会がインターネットを通じて行われる事。その会員が標準的なロータリークラブのメンバーでない。これは日本ではなかなか考えられないことです。例えばオーストラリアのように例会に行きたくても遠くてなかなか行けないという人のためのものというのですが、個人的には邪道のような気がしますが 2004 年の規定審議会で決まりました。

それから DLP についてですが、これは何かというと、地区レベル、クラブレベルでロータリーを強化する構想です。財団とか地区の活動の参加を活性化して、地区内でよりよく意思疎通を図るというものなんです。地区はこれを採用しなければなりません。一般的な特徴はガバナー補佐です。それから標準の委員会、指導力の継続性を維持する体制、研修するということです。ガバナー補佐と地区委員会、地区研修リーダーこれらを持ち合わせする仕事です。

さらに CLP についてですが、奉仕の第 2 世紀においてはロータリーが安定と成長、成功を遂げるためにきわめて重要な事であります。CLP を採用するかどうかはクラブの判断です。決して強制されてはいません。採用するかどうか、どんな委員会をおくか、いわゆる四大奉仕の部分と折衷したクラブの中で委員会を作っているところも多いです。ただクラブの会員数が少なくなっていますから考えようによったらこの委員会構成は採用しやすいと思います。地域のニーズとかそういうものを調べてそれに合ったクラブ委員会、活動をやっていくということなんですね。

これまでに何度も言っていますが、ロー

タリーの活動の中心はRIではなく、ロータリークラブとロータリアンなのです。中島パストガバナーはよく言われます。「逆三角形だ」と。RI会長は一番上ではない、一番下なんだと。ロータリアンと各クラブが一番上、ガバナー、地区役員はその下、さらにその下にRI理事、役員はまだその下で一番下がRI会長である、これがロータリーであると。

ただ残念なのがロータリーは変わりつつあります。1人1業種で選ばれた良質の職業人が毎週1回定例の会合に集まって例会を通じて奉仕の心を育んで高められた心を持って職場や地域社会、国際社会で奉仕活動の実践をする。ロータリアンには定年も卒業もありません。ロータリー運動を機会に始められた「人生の真理の探究」はより高い次元へ向かってその内容の質を高めながら終生続けなければなりません。ロータリーの魅力とは、知らず知らずのうちに他人に対する思いやりの心、助け合いの心を持ち、相手の喜びや悲しみのわかる人間に改造されていく。ロータリーの楽しみは、友達の輪が広がる。皆さんも実感されていると思います。それから人様のお役に立つ喜び、自分の人間的成長であります。

以上で私の話を終わります。ありがとうございました。

＜平原カウンセラー＞

せっかくの機会ですから、皆さんが日頃考えていることや疑問に思うことなどを話してくれませんか？先週、有田で2組のI.Mがあったのですが出席率が30％しかなかった。こんなに力を注ぎ、お金もかけてこの数字は何ともいえない。なぜこんなことをしなければいけないのか、とホストクラブの方がおっしゃってました。みなさんは何かありませんか？

＜新宮ロータリークラブ＞

新宮ロータリークラブの中井と申します。今、ガバナーがおっしゃったことは会員増強のことにも関わってくると思うのですが、例会に全く出席せずに、そのまま会員になっている人がいます。やめてくださいとも言わず、会費を納めてくれているからこのままの状態が続いていると思うのですが、このことについてどうお考えですか？

＜平原カウンセラー＞

私個人の考えですか？そんな人は出てください。とクラブのリーダーが言うべきだと思います。ロータリーはいろんなルールがあります。それが守れないのなら出てもらわなければいけません。しかし、これはガバナーが言うべきではない。言えないんです。クラブのお世話はしますけど指図する立場ではない。そのクラブのリーダーが決断することであると考えております。

ロータリー財団部門

【出席者】

カウンセラー	中島治一郎
カウンセラー補佐	岩本　行弘
リーダー	吉野　惣太
財団研究グループ交換等委員長	坂本　順一
財団学友委員長	川端　健夫
司会	小川　豊介
セクレタリー	稲田　静雄

＜岩本カウンセラー補佐＞

ロータリー財団には格別なるご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

ロータリー財団につきましては昨年の４月の地区協議会、そして９月のロータリー財団クラブ委員長会議におきましてご説明させていただいております。その時に財団学友の帰国報告がありましたけれども、時間が長引きまして、当日質問の時間がとれませんでした。その分をI.M.でまた改めて質問の時間取るお約束しておりますので今日は皆さんからいろいろなご質問をいただきたいと思います。少人数ですので大変質問もしやすいのではないかと考えております。質問も交えまして、進めていきたいと思っております。

＜中島パストガバナー＞

ロータリー財団の会議にご出席いただきまして心から御礼申し上げます。最近のロータリー見ておりますと随分変わってきたなというふうに思います。ＣＬＰというのは今皆さん方の間で論じておられますクラブリーダーシッププランであります。本部からの提案内容見ておりますと、どうも会員増強とロータリー財団へ力をいれていくんだという姿勢がよくみれるわけでございます。皆さん方ご存じかどうかわかりませんが、昨年の暮れ１１月の国際ロータリーの理事会で私たちが非常に大切にしております決議の23-34というのが無くなってしまったわけであります。決議の23-34というのはご存じでない方もたくさんおられるわけですから、それが無くなってしまってもそんなに変わらないというふうにお思いかもしれませんが、私は非常に大切な物を失った気がします。それの代わりになる物を作らなければいけないということで早くとも２０１０年の規定審議会で、何か代わりの物を私たちが努力をして持っていくということになります。

この23-34が消えた中で一番大切なのは国際ロータリーの概要というのは一体どういう具合だということでありまして、国際ロータリーというのは逆三角形でロータリアン、ロータリークラブは頂点におって、それをみんなでガバナーもそうだしあらゆる議事も支え、一番下で国際ロータリーの会長がバランスを取りながら支えるという図式でございましたが、今回の決議23-34が取り消されてしまう経緯を見ておりますと、頂点がとんがった三角形になって本部からいろんな指令が出てくるという形になっていくんじゃないかなという気配が濃厚であります。ＣＬＰもそれに歩調を合わせて、各クラブが会員増強やロータリー財団だけが非常に重きを置かれてそれも会員増強というのはクラブの会員を増やすという方向で非常にプレッシャーがかかって、肝心なロータリアンを増やすという意味ではなく、ロータリークラブ会員を増やすということになってしまう、非常に空疎な内容の会員を増やす要請が出てくる気がすごくするわけであります。

いつもみんなで語り合っていることですけども、ロータリー財団というのはプログラムがまずありきでプログラムがあるからそれを可能にするためにみんなでお金を出し合うという形であらねばならん財団だと思います。しばらく次の規定審議会の時も含めまして気をつけてロータリーをしっかりさせなければと思いました。これはロータリアン１人ひとりの自覚になってくるし、ＣＬＰを考えなければならない時期なんで、

皆さん方のクラブの有り様をお考えになる時に、うちのクラブだけはしっかりしなければというようなことで、ロータリーというのは何かということをよくお考えいただきましてその進化を発揮できるような形でクラブを構成していただきたいと思います。

従いまして２６４０地区に関しまして、ロータリー財団の皆さん方にお願いするのはあくまでもまずプログラムがあってそれを実行するために必要なお金を集めるという形でお勧めいただきたいと思います。やがてポリオのために、ビルゲイツ財団との間で話し合いがつきまして、ビルゲイツ財団が１億ドル出して同じだけの額をロータリーが出しポリオを無くす努力をしようと話し合いました。ポリオを撲滅したいという思いは強いですからありがたいことだとは思いますが、まずお金の額が決まってしまってそれを割り当ててみんなで出すというのは、僕はロータリー財団のあり方ではないと思います。ポリオをまずなくしたいから、後どれだけいるのだろう、どれだけいるのだったらみんなで出そうという形で資金を皆さん方にお願いする形であるべきだと思います。

＜岩本カウンセラー補佐＞

今ご挨拶にもありましたように、ロータリー財団まず寄附ありきではなくてプログラムありきでございます。そのプログラムにつきまして、順次ご説明させていただきたいと思います。

今、国際親善奨学生を募集しております。この件につきまして吉野奨学委員長よりご説明させていただきたいと思います。

＜吉野奨学委員長＞

お配りしました資料につきましては、すでに参加された方はこれが３度目くらいになるはずなんですが、まずこれから募集します財団奨学生というのはよくお分かりいただいているかと思います。ロータリー財団がどういう人を育てようとしているか、ロータリーでよくいわれます言葉にございます。ロータリーを他から見ますと宗教でもないし軍隊でもないし法律も作れないし一体何が出来るのか、平和平和というけども、それに対してロータリーは、じゃあ、軍隊に平和が出来たことがあるんですか？法律で決めたから平和が出来たことあるんですか？私たちは国境を越えて人との交流でもってそういうことをたくさん実現してきたわけです。

今はポリオが目立っておりますが、実はロータリーが出来てしばらくは南米でのいろんな実際に起こった戦争を仲介に入ってみたり、或いは起こりかけた戦争を止めたりロータリアンの実績というのはたくさんあります。人をいろんな国に派遣したいというのがロータリーの思いです。そして現地の事を分かり、こちらの事を分かっていただく、その中心になっております事業の１つが、ロータリー奨学生でございます。約２０年、昨年まで金融界をリードしました、アメリカのフェデラルリザーブバンク、そこのポールボルカーという会長、今でも世界の為替とか経済に大きな影響を与えている、この方財団奨学生です。日本では皆さんよくご存じの、緒方貞子さんが財団奨学生でございます。我々はそういう人たちを今まで財団奨学生として海外での経験を積んでいったと思います。

今、財団の奨学生の現状はと申しますと、この１０年くらいで派遣人数が半減しております。それは世界 R.I. でもそうですし、この日本でもそうなんです、理由がよくわからない。それともう１つございますのが、いろんな地域にということを我々願っておるわけですがどうしても日本から行く学生達がアメリカでありヨーロッパでありそういうとこに集中しています。これが今財団の抱えている、今後改善していきたい点であります。ですからこの地区で、若い有望な方で特にいろんな地域、今までのアメリカ一辺倒とヨーロッパ一辺倒とじゃなしに、他の地域、文化を目指していかれることがありましたら是非ご推薦いただきたいと思います。

それから先日お配りしましたポスターですが私は自宅に貼るために１枚しか持ってこなかったんですが、これを目の付くところに貼っていただきたいと思います。奨学生の募集要項ということで、これは年々変わってまいります。まず私どもの地区が継承している奨学金というのがございます。私どもまず１年の奨学金、金額は２万４０００ドル、これは渡しきりということです。マルチイヤーの場合がその半分

を２回に分けています。それから６ヶ月の文化研修が１万６０００ドル、１学年奨学金の方は現地での語学を修得する間もなく勉学に入っていたとありますので、今実際に出発までに語学をかなり出来るところまで勉強していただくということが要求されます。２年のマルチイヤーになりますと少し楽になります。

６ヶ月というのは文化研修でして、３ヶ月の方も語学の制限はございません。それから３ヶ月の文化研修、これは小学校英語教育に今後力を入れるという事で、小学校中学校の英語教師に限り英語の研修を継承しております。一般の方が英語の勉強するために３ヶ月海外へ行かせてほしい、これはお断りしております。それから応募資格ですが、まず留学までに２年間の大学生活を送っているということが前提です。応募方法がこれは財団奨学生の申請書というのがインターネットでとることができます。それから語学力の証明書、以前は志望校というものを５つ順番に１番２番３番４番５番と書く制度がございました。今は志望校は５つ書いていただきますが１番２番３番４番５番という順列はございません。それから、地区の選考試験、５月２４日土曜日２５日の日曜日に和歌山の方で行います。合格者人数というのはあらかじめ決めておりません。理由は優秀な人が多ければ多くの方を出させていただきます。幸いこの地区は皆様からのご支援を十分にいただいておりますのでかなり大きな枠をいただいております。

留学までの手順というとこに入っておられます。まずポスターの話を先ほどしました。それから応募者はまずクラブの推薦をとっていただくためにクラブへ申請書を提出します。クラブから審査された方を地区の方へご推薦いただきますが、その締め切りが５月９日になっております。それから、クラブで推薦が決まりますと会長のサインが必要になります。会長さんのサインというのはよく忘れられるケースですので注意していただければ幸いです。この中でこの地区の特徴といいますのは第４番目に書いております、オリエンテーションを年５回行います。推薦された方が合格されますと、カウンセラーが各クラブから指名していただいて、そのカウンセラーと一緒に５回のオリエンテーションに出ていただきます。このオリエンテーションの質はこの地区はかなり高いといわれております。

＜岩本カウンセラー補佐＞

今ちょっと具体的に申しあげますと、学生、社会人もそうなんですけども、応募資格ありますので。先ほどちょっと吉野委員長よりお話ありまして１つ確認しておきたいんですけども、この４月に試験を通って入学した人は対象になりません。今現在、すでに１年に在学している人たちが最年少になります。学生又は社会人から皆さんのポスター等を見てこれに行きたいというお話が皆さんのクラブにありますとこういう申請書に全て書き込みしまして、皆さんのクラブで推薦ということになるわけです。クラブ推薦しないとガバナー事務所は直接受付いたしません。皆さんのクラブの推薦が必ずいるようになっています。皆さん推薦されるわけですから、是非本人に会っていただいて面接していただいてそして推薦するかしないかをクラブで決めていただく。この人を是非推薦しようということで応援してやろうということが決まりましたら、ここに会長さんのサインをして、そしてガバナー事務所へ送っていただく。それで地区試験をするんですけども、そこで１つこれも確認したいんですけども、ロータリー財団は地区の選考試験を５月にしますけども、その試験に通りましても留学できるという保障はないです。

この書類をアメリカのロータリー財団の方に送りましてそこで審査されます。その次、本人にあなたはここの学校受けてよろしいよということを通知してきます。そこの学校に向かって願書取り寄せするなり入学の許可を得るのは本人の責任なんです。例えばフロリダ大学に行きたいという学生がおりましたらフロリダ大学から願書を取り寄せして、そしてその試験を受けて入学許可を得る、それが全部です。従いまして、その学校に例えば語学力が足りないとかいろんな理由で入れない場合があります。必ずしも留学できるという保障はないというふうにご理解願いたいと思います。ロータリー財団は大学の斡旋はしておりません。本人がやるということになっております。

ここ最近、辞退が何人かおります。１番の理由はやはり語学力です。大学行きましたらいきなり語学研修の人は別ですけども、１学年度またはマルチイヤーの学生は、大学または大学院ですので相当な語学力がなければ学校が入学許可をくれません。その点ご理解願いたいと思います。続きまして研究グループ交換ですけども、これはすでに昨年１１月、イギリスのウェールズと交換を行いまして派遣いたしました。そしてもう帰ってきております。この３月から受け入れです。向こうに行きました派遣、それに対しまして向こうからも５名の団長以下団員が来られますのでその受け入れにつきまして坂本委員長よりご説明をお願いしたいと思います。

＜坂本順一＞

岩本さんの方から報告ありましたようにＧＳＥは送り出しと受け入れと両方あるわけですけども、すでに送り出しの方は１０月の６日にウェールズの方へ出発しまして１１月５日に無事帰国しました。１１５０地区の方から大変いいグループだったということで高い評価をいただく評価表まで送っていただきました。今度受け入れが３月３０日から４月２６日までということで、一昨年ブラジルの時にI.M. １組の串本、田辺、白浜の方でお世話になりまして大変喜んで帰国いたしました。

昨年はシカゴから来たんですけれども昨年は１組３組５組７組というところで受けていただきまして、今年度のウェールズに対しましては２組４組６組８組で受けていただくということが決まっております。毎年海の白浜のある１組と高野山の４組が当たらなくてもいつもお世話いただいてるということで大変申し訳ないです。今年度も１組は当たってないんですけれども、４月１９日と２０日、１泊２日こちらの方でお世話いただくということで決めさせていただいております。今、地区のＧＳＥの委員は全部で６名おるんですけれども、白浜ロータリークラブの岩橋修さんに地区のＧＳＥの委員をしていただきまして、今白浜での１９日の１泊２日の計画を立てていただきましてそれぞれのところにまたご相談にあがらせていただけると思うんですけれども。一応今決まってるのはI.M. ２組の御坊有田地区から１９日の１１時に指定されたホテルにＧＳＥの団員を送ってくるということが決まっております。そして、その日の夜までちょっと何かご案内いただいてその日白浜かどこかでお泊めいただいて、２０日の日曜日に、資料の後ろに団員の名前と顔写真をつけております、この団長以下団員４名が来るんですけれども、どの方も日本の歴史ということに大変興味がありますので、出来ましたら熊野古道とか環境問題の熊楠さんのところとかを日曜日にご案内いただければ非常にありがたいなと私たち考えております。それで日曜日の３時半に田辺市のどこかの指定場所に、I.M. ６組泉佐野ロータリークラブの方から迎えにきます。その間の１泊２日をI.M. １組の方の特に白浜、田辺の方でご案内をいただきたいとお願いにあがりましたので、地区の岩橋さんを中心にしまして、早々にホテル等々をお決めいただいたらと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

またＧＳＥに関しまして終了次第報告書というのを作らないとだめになっております。それでこちらの白浜の宿泊であったり見学または案内していただいたところに関しましては写真等々を、もし終わりましたらガバナー事務所の方へお送りいただきたいと、また１泊２日でお受けいただいた誰かの感想文を原稿用紙２、３枚にまとめて写真と添えて報告書をいただきたいなと考えております。

ちょっと注意なんですけども、ウェールズはイギリスにあるんですけどイギリスでない、ウェーブというらしいんで、イギリスというとあまり機嫌がよくないということで私たちも一貫してウェーブ、ウェーブと言うておりますのでその辺ご注意いただけたら非常にありがたいと思います。以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

＜岩本カウンセラー補佐＞

今ご説明ありました、研究グループ交換として国際親善奨学生、この人たちが帰国いたしますと学友ロータリー財団の学友というところに所属いたします。その学友の活動につきまして川端委員長よりご説明いたします。

＜川端財団学友委員長＞

まず最初に１１月の財団審議会には学友

を呼んでいただきましてありがとうございました。１１月以外の月にもご連絡いただければいつでも学友を派遣いたしますので今後よろしくお伝えください。現在学友会の学友の会員数は、岡田親善奨学生３６７名、研究グループ交換参加者７７名、合計４４４名ですが、今年は岡田団長以下４名の団員がイギリスのウェーブから帰国されましたので研究グループ交換参加者は８２名になり合計４４９名となっております。

それと、帰国した奨学生が主として派遣地区で位置づけられている講演を完了するようになっておりますので学友委員会は学友委員会学友会を協力し、またみなさんのクラブでも卓話に呼んでいただきたいなと思います。これは帰国後最初の１年にロータリー行事で少なくとも５回講演する、そしてもう１つは帰国後ロータリー以外の人を前に少なくとも３回講演することになっております。そのためにも皆さんのクラブで呼んでいただきましてそれをクリアできればと思います。それと、毎年年度終わりに財団国際親善奨学生が留学中の第１回報告とか近況報告、最終報告等帰国報告書等を冊子「学友」を作っておりますので、これは年度終わりに皆さんのクラブに送らせていただいております。現在、名簿を最終のものにするために、学友の住所、電話番号、メールアドレス等変更あれば出来るだけガバナー事務所へ連絡いただけますようお願いします。なぜかといいますと、卓話とか行事などで学友に連絡しようと思っても住所とか変わられて連絡つかない場合が多々ありますので、親善クラブまたはロータリアンの方は学友が帰られましたら出来る限り連絡取っていただきまして、ガバナー事務所の方へ連絡いただけたら結構かと思います。最後にロータリー財団学友はすぐれた人がたくさんおられます。ロータリアンとして有望ですので、出来る限り会員として的確な学友には積極的にクラブの入会をお勧めしていただきますようお願いいたします。

＜岩本カウンセラー補佐＞

今お話ありました、研究グループ交換の団員、そしてまた国際親善奨学生のプログラムは全て私たちの貴重な寄附金で成り立っているわけです。帰って来た国際親善奨学生等に聞きましても、大変留学で得た物が大きいものですから会員の皆様方に本当に感謝の気持ちを持っているんです。けれども、クラブの方となかなか帰国後接したりする機会がないので、恩返しを出来ないということで、皆さんの方から帰国後声をかけていただいてできるだけ長い間そういうクラブのおつきあいもお願いしたいと思います。ご質問ございましたら何でも結構です。

＜田辺東ＲＣ　浦地　章＞

奨学金の問題なんですが、１年で２万４０００ドル、マルチイヤーは２年で２万４０００ドル、同額というのはどうも腑に落ちない感じですね。

＜岩本カウンセラー補佐＞

おっしゃるとおりですね。これはどういうふうに。

＜中島パストガバナー＞

今、ヨーロッパへ行ったらだいたい２万４０００ドルでは足らないんです。あくまでもこれ補助金なんです、奨学金の補助金として出すのにマルチイヤーで行きたい方ももちろんおられるわけで、そういう需要を満たすのに１年の倍出すかというと人数減らしてしまわないといけないので、同じ額の補助金にして選択していただく。２年を取ると１年あたりの半分になってしまうけどもそれでもいいんだったら行っていただきたいと、だからあくまでも全額こちらで提供するというよりも補助金として出すけども１年の場合も２年の場合も一緒ですよ、だけど２年行きたいということだったらそれでも構いませんということになってしまったんです。

＜岩本カウンセラー補佐＞

むしろ１年で２万４０００ドルというよ

りも１人で２万４０００ドルというふうに考えていただくと、ですから２年でも１人は２万４０００ドルというふうに考えていただいたらわかりやすいんじゃないかなと思います、補助金ですから。

＜田辺東ＲＣ　浦地　章＞

実は私も今年委員長になりまして皆さんにお願いをしたんですけども、今日も財団の奨学生の問題が主になっておるんですけども、ロータリー財団というのは本を見てみますと、奨学生を置くということと、そして奉仕活動をするという費用もかなりいってるわけで、米山の場合は奨学資金があると思うんですが、ただ会員の皆さんはどうもロータリー財団というと奨学金を集めていると間違った認識が多いように感じてるんですよ。ロータリー財団というのは奨学金だけと違うでしょ。国際的な活動をしている、そういうような資金なんです。いわばうちのクラブでニコニコを集めてうちのクラブだけで奉仕活動をする、これは国際的なニコニコですよと、その中に財団の奨学生がいる、その他に国際奉仕がいろいろある、他の奉仕活動を含めてのお金ということで、国際的なニコニコやということで説明をしながら今お金を集めているわけなんです。財団をもう少しＰＲしていただいたら大変ありがたいなと思います。

＜岩本カウンセラー補佐＞

今皆さんのクラブの事務局にこういう臨時報告書というのが最近着いてるはずなんです。２冊ついているというのは１冊は国際ロータリーの免除報告書いわゆる決算書なんです。これは昨年度の２００６年～２００７年度の決算書なんです。これがロータリー財団の決算書なんです。この２つが送られています。要するに２つあるということは全然会計別なんです。国際ロータリーというのとロータリー財団と別なんです。

そしていろいろな奉仕活動というのを全てロータリー財団が財源になってるんです。ですから、ロータリー財団の寄附がなければ国際ロータリーに何ができるかと、何もできないんですね。奉仕活動できる資源がありますけども。今おっしゃるように国際親善奨学金だけじゃなくて、このクラブの委員長会議の資料にもありますように、こういうふうなものに使われているということで書いておりますけども、これをさらに詳しく説明しましたのがこの寄附金の流れと、これ見ていただきますと分かりますように、公共基金とか臨時寄附そして使途指定寄附、これが何に使われているかということをここに書いているんです。

そして、この国際親善奨学金、確かにこの地区は国際親善奨学金を使っているんですけども、これは寄附全額じゃなしに、我々年次寄附なんですけども年次寄附いたしますと３年後に５０％が国際活動資金として使われます。後の５０％がこの地区でいろいろなもの、それを今国際親善奨学金に使っているわけでして、全て国際親善奨学金に使っているかということではないんです。そしてまた皆さんがご寄付される場合、国際親善奨学生がたくさんいるんでもういいじゃないかと思われましたら、私はポリオプラスにしたいと、ポリオプラスにもちろんしていただいても結構ですし、そしてまた私は公共基金ですね、ロータリー財団の積み立てしておりますけども私はこちらの方にしたいんだということを思われたらどうぞそちらの方へしていただきまして、要するに皆さんが納得していただいて私はこういうことに指定したいということを、ご意志をはっきりしていただいてご寄附をしていただくと非常にありがたいなというふうに思います。

＜田辺東ＲＣ　浦地　章＞

私がそういうことで皆さんにクラブではお話はしたんですけども、もうちょっと宣伝、学生ばかりじゃなしに他の宣伝もしていただいたら非常にありがたいなとこういうふうに思います。

＜中島パストガバナー＞

今説明ございました、この小冊子が必ずクラブへ届いているはずですので、恐れ入りますが例会で皆さん方にご紹介いただきたい。今おっしゃってくださったように、人道的なプログラムどういうのを使ってるかということも書いてあるんです。

少なくとも半分は人道的プログラムに使われているわけです。

＜田辺はまゆうＲＣ　樫木秀行＞

去年１２月３日に中島さんに卓話をしていただいたんですけども、その時に御礼を

差し上げるんですけども、礼金をこれはどこかにということで私は手を挙げて、中島さんはお忘れになったかわかりませんが、ロータリー財団の方に寄附をお願いしますというような、そういうお話をしたんです。それとか１つの手帳を買います、手帳は確か７００円だと思うんです。皆さん１，０００円を出すんですね。その時の３００円は私はニコニコの横にロータリー財団と米山のボックスを儲けてその事務局か担当者が手帳を渡す時にその後ろへついていくんですね。で、その３００円を入れていただくんです。塵も積もれば山となるですか、そういう具合にせめて１日に例会の時は２，０００円～３，０００円集めるような感じで、そうすると割合と集まりやすいですね。そういうような方針を作っております。

＜岩本カウンセラー補佐＞

ありがとうございます。ご質問ございませんか、何でも本当に結構ですよ。

＜田辺東ＲＣ　浦地　章＞

私は１人１００ドルで集めてるんですけども、それは最初は１２，２００円になったりですねレートが変わる、あれは１万円ということでの集め方はやっぱり具合悪いですか？

＜岩本カウンセラー補佐＞

そんなことないですよ。例えば１１月が確かレートは１１６円だったんです。今１０８円ですよね。そしたら例えば１１，６００円で１１月で１００ドル、今すると１０８００円で済むわけですね。そういうレートのいい時にもちろんいただくのも結構ですし、１人に１０，０００円で集めるのがいいのか、それともその時にレートで集めるのかそれはどちらでも結構でございます。私のところなんかもされる方は１００ドルとか言わないで１万円とかそういうふうにされますのでそれはそれで結構です、端数がでてもそれはいっこうに構いません。

＜中島パストガバナー＞

去年の春の地区協議会の時にお集まりいただきまして、ＤＤＦという地区で用途を決められる資金の中から奨学金以外にポリオプラスパートナーズとロータリーセンターといって平和プログラムがございますが、この２つに使わせていただくことになりますといって皆さんの了承を得ました。ポリオプラスパートナーズプログラムにはＤＤＦの中から地区が用途を決められるプログラムに２０，０００ドル送らせてもらいました。ポリオは今昨年度１，０００件きりまして、本当にゼロにひたすら向かって今進めております。１日も早くゼロにしてしまいたいんですけど、なかなか手強い病気でございまして、ＷＨＯやユニセフが一生懸命になってくれてましてだんだんゼロに近づいて行っておりましてもう本当に一息のところであります。ここで気を抜いてしまいますとまた戻ってしまいますのでみんなで力を合わせてがんばろうということで、地区の資金からも２０，０００ドルまわさせていただきました。今年はだいぶまた数が減っていくというふうに思います。なんとかゼロにしてしまってこの地球上からポリオがなくなったという喜びを分かち合いたいと思うんですけども、最後のとこは一番詰めが大事でございます。そういう形で地区としてそうさせてもらうと皆さんにお断りしながら、今おっしゃるように奨学金にだけ使うんじゃなくて他に緊急な用途とか意義のあるここぞという時に必要なもの出来ましたら使わせていただくことにしたいというふうに思っております。

ポリオプラスパートナーズというのは何かといいますと、ポリオのワクチン供与を一斉投与という方法でやります。１人１人にやったらだめなんで一斉に集めて一斉投与やりますが、それに集まってくる子供に風船を渡してやったりワクチン供与に従事している方のユニホームを作ったりしています。今アフリカがほとんど中心になってゼロにしたい資金になっているんですけども、内戦が起こりましてユニセフやＷＨＯの先生方は本当に必死の思いでワクチン供与やってくださっています。インドは随分減りましたけどもまだちょっと残っております。インド、パキスタン、ナイジェリア等が最後のポリオの残っているエリアです。適宜皆様方の貴重なお金を使わせていただくように心配っております。

＜田辺ＲＣ　小川豊介＞

時間が参りましたので、終了させて頂きます。

米 山 奨 学 部 門

【出席者】

カウンセラー	前窪　貫志
カウンセラー補佐	松下　光春
リーダー	米田眞理子
司会	津村　寛司
セクレタリー	竹本　達也

＜前窪パストガバナー＞

ご存じのように米山は４０周年を迎えております。米山も一番多い時は寄附金２０億ぐらい集まっていたんです。現在は１４億です。７掛けぐらいです。２０億集まった時は日本のロータリアンの数が１３万ちょっと越えていました。３割減ぐらいになっていて、寄附金も７掛けになっている。ただし、一番多い時は１，０００人をずっと維持していたんですけど、奨学生、これは８掛けになって８００人、かろうじてがんばっているというのが現状でございます。

米山も評議員とか理事の数が減りました。それは公益法人が減っているということでございます。だから当地区では評議員がガバナー、私は一応理事ということで出席しているいうことでございますので、地区に２名の評議員、エレクトとガバナーがだいたい評議員になっているというのが実情でございます。

何分にも民間では最大の団体でございますのでそれを維持したいということと、世話クラブ、カウンセラー制度というのがこれが普通の奨学金制度の違う部分、このようにご理解をいただいといてそれをフルに活かしていただくような方向に持っていっていただきたい。

ご存じのようにロータリーは世界平和を目指していますので、その一躍を担う為に特に米山はアジアを中心に人の交流、違った形の交流を進めていってると、それは徐々に効果が現れているということが実情でございますので、詳しいことはまた松下委員長さんの方から出てくるとは思いますが、そういう方向ですので、是非各クラブで２つありました、米山奨学生の委員が１つ、もう１つはそれを支える為の寄附をよろしくお願いしたいという２つを強調して終わりたいと思います。

＜松下カウンセラー補佐＞

米山事業につきましてはここにパネルがあります。皆様方に豆辞典を差し上げております。最近だんだんと変わってまいりましたことにつきまして少し説明させていただきます。米山奨学事業と申しましても、先ほども前窪理事さんの方から申されましたとおり４０年経ってまいりますと変わってまいりまして、米山支援規模の実績のわりにロータリアンの皆様方にあまり知られていないというのが実情でございます。

そしてまた奨学金制度につきましてもいろいろと変わってまいりまして、これにつきましては４、５年前まではクラブ推薦であったものが３年間の指導期間を得まして日本の全地区３４地区ともに大学推薦制度をとって新しく変わってきたということです。

最近ではなるべくこういう法的に使いたいという事業でございますので現地採用という方向も進んでまいりました。

しかし現地採用になりますとすごく費用がかかります。その国と世界と或いは日本と架け橋になっていただける人材を育成するということになりますと、日本から向こうに出向いて行って再予選しなければならないということでございまして、奨学金、毎年代修士課程の方が１４万、博士課程の方が１４万、という支援をしておりますがその半額しか渡せないというのが実情でございまして、現地採用につきましては１年目の方が１人あたり４００万くらいはいります。普通の米山奨学生ですと月１４万の支援をしていきましても、１６０万くらいの奨学金ですんでいくんありますが、そう

いう面でかなり高くつきます。

２年目から２００万くらい下がってまいるんですが、１年目はどうしても高くつくということです。

現地採用した中で、初年度東京地区に１人と大阪大学、２６６０に来ている方、現地採用した方がやはり優秀な方であるということがわかってまいりまして、３年間の試行の結果で国を広めていこうかというような方向にあるというのが実情でございます。

そういう面からいろいろと米山奨学事業も変わってまいってますので、新しい方向によりロータリアンの皆様にご理解していただけるような方向にということで伝わってまいっております。

そういう面で米山奨学生とロータリアンと接する機会を多く作ってなるべくロータリアンの皆様方とコミュニケーションをとっていただくことが、１番最大の重要な効果になっていくというような結果がでております。

＜米田真理子＞

ありがとうございます。引き続きましてパワーポイントで豆辞典をざっと流すようにご説明させていただきたいと思います。

米山奨学事業は４０周年を迎えております。外国人留学生に対する民間奨学団体は日本全国に１４２団体ございます。助成財団センターの発表では米山奨学会の助成等の事業費は民間奨学団体では第１位でございます。この規模の大きさに加えまして世話クラブ制度、カウンセラー制度という２重の構造で支援しておりまして、１つのロータリークラブが米山奨学生を奨学期間中受け入れる制度、例会や奉仕活動に参加したり世話クラブの人々と深いつきあいをすることによって日本への理解、ロータリーが求める奉仕の精神や平和の願いを伝える場となっております。

米山記念奨学会の歴史でございますが、米山梅吉氏の死後、彼の偉業を永遠に偲ぶことができるような有益な事業やろうという記音が高まりましてできあがりました。米山基金を設立し募金活動を開始し第１号の奨学生はタイから当時２５才のソムチャード君を受け入れました。２００７年７月１日に米山記念奨学会は財団設立４０周年を迎えました。ロータリアンの皆様からの寄附は全額奨学生の為に使われております。管理費、会合や旅費や事務所、賃借料、管理部門の親権費は利子収入でまかなっています。ご覧いただいたとおり、収入と支出両方に繰越金がございます。これは手元資金として年度初めの奨学金支出に必要なものとしておいております。２００７年６月末で特別積立財産は２７億円となりました。この特別積立財産は非常時に備え２年間分の奨学金相当額として確保されております。

寄附金の推移ですが、先ほどお話がございましたように、１９９６年をピークに下降し続けております。２００６年度の寄附金は１４億５２００万円、残念ながら前年度比マイナス０．８％に終わりました。しかし１人あたりの平均寄附金額は前年度を上回り予算額１４億５０００万円を達成しております。

会員の減少に伴う寄附金の減額が顕示されております。地区別個人平均寄付額でございますが２６４０地区は６番目でございますが、本日お配りしたリストにはまだ８番目でございますのでもう少し年度内にご協力をいただくようにお願い申し上げます。

新しい表彰制度についてご説明いたします。２００７年７月から変わった制度でございまして、このように報酬の制度が変わっております。皆様には３０万円で功労賞というのが１番印象に深いかと思いますが、新しい制度はこのように変わっております。米山奨学金の寄附は税法上の優遇措置がとられておりまして寄附金控除の対象となっております。

法人の特別寄附についても法人税が軽減されています。申告用領収証は毎年１月末に米山奨学会事務局から送られております。

では、元米山奨学生の活躍を少しご説明させていただきます。韓国出身のチェサンヨン氏は数多くの米山学友の中でも最も国際社会で活躍してる方です。日韓共同宣言の宣言文章作成に関わった他、２０００年から２年間中日韓国大使を務めました。

２つ目の例でございますが、台湾出身の米山学友ピン・マンレイ氏は世界四大博物館の１つにあげれられております国立コキュ博物院の委員長を務めております。コキュ博物院の委員長に女性が就任するのは初めてのことでございます。

３番目の例でございますが、台湾のロータリークラブで、このロータリークラブは創立会員３２人の内、米山学友が８人をしめています。またクラブ会長や会長エレクト、会長ノミニーはいずれも米山学友生です。初代会長の、ホ・チンタンさんは写真の右端でございますが日本のロータリアンの皆さんにいつか恩返しをしてという思いが結実して出来たロータリークラブと申されております。

一番わかりにくい奨学金のプログラムが７つございます。学部課程奨学金のＹＵ、修士課程奨学金のＹＭ、博士課程奨学金のＹＴ、地区奨励奨学金、クラブ支援奨学金、海外学友会推薦奨学金、それから先ほど松下カウンセラー補佐からお話がありました現地採用奨学金とこのように７つのプログラムがございます。

地区奨励ロータリー米山奨学金でございますが、２００６年度から新しく作られた制度でございまして、奨学金額は大学院生で１４万円の半額であるかわりに１名採用枠につき２名採用することができます。下に書かれている地区で実施されております。現地採用ロータリー米山奨学金でございますが、こちらは先ほど申しましたように、ベトナムで、すでに第２期生の募集、選考が進められており、さらに２名を採用する予定でございます。

最後になりますが米山奨学事業は日本のロータリアンが築き上げた国際平和につながる奉仕活動でございます。海外に行くまでもなく日常の生活の中で国際交流を実現することができます。海外から日本にやってきた若者に日本の本当の姿ロータリアンの心をお伝えください。

＜河合学友担当委員＞

私は学友の方の担当をしておりまして、今、回覧していただいているのは奨学生の地区行事、地区活動にどんなふうに参加したかという実績表です。アリフ君は非常に前向きな学生でありまして、私は出来る限り先生に協力しますよと言ってくれていろいろと協力していただきました。おとなしい子なのでどうかなとは思ったんですが非常に活力に溢れた学生でございました。

私のお話は実際経験した話ばかりでございますのであちらこちらと飛んでいますけどよろしくお願いいたします。昨日の夜中、電話がかかってきまして、ある元奨学生からなんですけど、今、先生、私は瀬戸内海から航海に出ようとしています。上海に帰るわけです。上海に帰るんですけど２日かかるわけです。その子が１週間ほど前、９年日本に留学した、その間米山にお世話になったのは２年間、うちのクラブで修士課程を終えた、大学院行って博士号とって今度は西安のシアン大学に就職すると。９年おったら荷物多いんですと、そりゃそうだと言いましたが、飛行機ではとっても帰れません、船で帰りたいと思うんですけど荷物が多すぎて上海で誰か迎えに来てくれる人いませんかと言ってきました。

急遽上海の元学友にメールしまして、こうこうこういう話があるということを言いましたら、ちょうど私日本に帰るから、行くと違って帰るというので電話を切りまして、こういう話があるので協力できるかという話をしましたら喜んでしますと、上海埠頭へ私が迎えに行って、その荷物完全に西安まで送りますという話がつい終わったところなんですね。

なぜその話をしたかと申しますと、学友は終わったらバラバラになってしまって非常に連絡がとりにくい。皆さんの元にも預かった学生の行方を捜すアンケートが米山から送ってきたと思いますけど、終わったらバラバラになってしまう。それではちょっともったいないんじゃないかなと、せっかくロータリーのお金で恩には着せないんですけど、１年間なり２年間なりお世話して帰って行ってそのままというのは、ちょっと財産を失うような気もしませんか？それで私はネットワークを作ることを４年前

から初めました。

今、上海へ電話したと言いましたけど、上海にはちゃんとある意味でデポができました。上海在住の元学生達はそのデポを中心にいろいろ遊びもするだろうし、交流もするだろうし、いろいろやっています。チンタオにもあります。今度はウランバートルをねらっておりますが、２６４０地区で勉強した仲間達のこれから非常に発展していく若いもの同志のサークルを作っていくということは有意義なことではないかと思っておりますが、大変手間のかかることなんで時間をかけていこうと思います。

サークルの話をしたついでに、今日の本題に入っていこうと思いますけど、この話は今年度当初から私が言っていることなんですけど、ある大学の教授からメールが来まして「今の学生は、奨学金もらったらそのまま使ってしまう」なぜかと言うと、特に中国、豊かになってきたんですね、家の仕送りもたくさんあるんでしょうね、そのまま使ってしまうと。その教授は台湾の人だったんですね、元米山奨学生だったんです。

僕の時はこんなんじゃなかったけど嘆かわしいと、なんとかならんかというメールでございまして、私も非常にショックを受けたわけですけど、各家庭で、各家庭差と言ったら失礼なんですけど、同じ奨学生という資格で奨学金をもらっているんですが、収入の差というのは非常に多い。

そう言ってきた大学へ行っていろいろ話を聞きますと、確かにあるのかなということなので私はこの申込書をチェックしました。すると２人あったんです。I.M. に方々行きますと、奨学金を金持ちの子供にあてるのか、党の役員の子にあてるのかと、ある所ではそんなふうに言われたこともあるんですけど、そんなことはないだろうと僕は思ってたんですけど、家からの仕送りがたくさん来てる子があったんですね。

これはなんとかしなければいけないと思っていろいろ研究をした結果ですね、選考の方法を変えました。

非常に手間のこる選考の方法を今年実施しました。

まず家族構成、受験者の全部に私と米田委員長で手分けして電話したわけです。どんな家族構成か、親は何をしているのか、親の収入はわかるか、親は退職したのか、それとも定年で終わったのか、いろいろ根ほり葉ほり聞きました。そうすると、定年でやめた場合、中国、台湾は同じ給料を同じ職場でずっともらえるんです。商売している親、これはもうそれっきりです。農民の親、これはもう苦しい生活です、仕送りもしてくれたらいい方、してくれても１月に１万円ぐらい。その親の子供さんはアルバイトしながら一生懸命学費を稼いで食事をして大学へ行っていると、並々ならぬ努力をしている学生達が多々いるわけです。

できる限りそういう学生がおれば協力してあげようという気持ちもありますし、勉強が出来れば、尚応援してあげようという気持ちも十分、皆さんもあると思います。ただ家から送ってきた小遣いで、のうのうとして勉強もろくにせず、こんなもんに奨学金があったらせっかく皆さんのご厚意を集めてお渡ししたお金が、非常にロスになってしまうというところから、今年の選考は筆記試験もやりました。

筆記試験にはごく簡単な設問をしました。あなたはなぜ奨学金がほしいのですか？と。よく学生達は日本と中国の架け橋になりたいと、きれいに書いているのですが、どんな橋を架けるのか、経済で架けるのか文化で架けるのかそれを書いてほしいと。

３番目、ロータリーと一緒に奉仕活動ができるか、そういうことを書いてもらったわけです。ですから、非常に心の内がすっきりに見たと、そういう段階で一応羅列順位同位並べたわけですけど、最後の面接これは６人のパストガバナーにやっていただきました。その結果２２人の学生を選ぶわけですけど、結果として中国の学生が多くなってしまったわけです。意図してやったわけじゃないけどなってしまったんです。２２名受験に来て１３人とってしまった。彼ら優秀なんです。同じ問題やって同じこと聞いてるのですが、生活の態度も違うし勉強の目標も違うんです。ただ日本に留学に来てそのまま学校を卒業してといっても短大くらい卒業して就職するんだという学生の場合は、非常に切迫感があまりない、４年間やっていかなあかんという子はやっぱり切羽詰まってやってます。

そういうことで非常にクローズアップしてきましたので、今年の合格者はもうすぐ集めるわけですけど、特にロータリークラブの国際奉仕でやっているこの奨学金の話をまた何回も懲りずにやっていこうと思います。

ですから、この組は南紀の方は本当にいつもお預かりしていただけなくて２、３年前一度大勢して学生を連れて行ってお世話になったことがありました。ありがとうございます。そういうことでもやって理解を深めていただこうかなとは思ったり、いろいろしておりますけど何分米山の方も財政が緊迫しておりますし、どこまで出来るかわかりませんが、できる限り皆さんに接していただく機会を多くしようと思っております。

今年の学生は非常に今までにない、いい学生が採用できたのではないかと思っております。

＜米田真理子＞

ただいまより各クラブの委員長さんから自クラブの米山奨学事業対する取り組みとか、お世話クラブをいただいている方は奨学生の様子をお聞かせいただいたり、質疑応答に移らせていただきたいと思いますので順番にお願いできますか。

＜田辺ＲＣ＞

私たちの方は例年どおりぐらいしか今やってないんですけども、今年の目標としては金額を多く集めるというよりもできるだけ全員に少しずつでも集めたいなということで、頭数を増やすことに努力したいという、今年の目標にしております。

＜米田真理子＞

新宮クラブ福田様お願いいたします。

＜新宮ＲＣ＞

新宮クラブは、福祉の寄附、特別寄附、ここでは２７万となっておりますが、その後５万円、２月に増えまして３２万円になりました。まず１万円の医療が税法の寄附の控除の対象になりますと、２年ほど前から５，０００円になりましたので５，０００円以上多くいただいたらその税金が安くなりますというところからいきまして、所得の税金を下がっていない人は、控除等の問題はありませんけれども、例えば２０％ある人でしたら４万５，０００円にしていただいたら４万円に対する２０％の所得が減っていきますという、税の方面から話をしておりますが、なかなか予想以上に景気が悪くてあまり集まらないというのが本当のところなんです。今までは、３０万もらったら盾がありますというのがなくなってきましたので、感謝状だけになりますと、１０万円ごとに感謝状、例えば５０万円してもらったら５枚も感謝状たまりますということで、やっぱり感謝状だけではなくて他の物、なんでもいいのでネクタイピンとか実際使えるようなものをしてもらう方がいいんじゃないかなと思います。中国は反日感情と、一般的には、テレビとかマスコミの上の話だけなんですが実際、中にはそうでない人がおるようですけれども、国家として反日を宣伝していくような国ですから、もう一つ中国という奨学生を考えていただけたらいいんかなとは思います。

＜松下カウンセラー補佐＞

ただいまのご意見どこのI.M.に行かせていただいてもごもっともなご意見でよく出る話でございますが、日本に来ている留学生、或いは２６４０地区内に来ている留学生の数にしましても、現在日本全国では１３万人ぐらいはいるのですが、２６４０地区では３００人あまりおりますが、やっぱり６５％まで中国出身者であるということが実情です。

河合さんからも新規採用のいろいろな話がございましたが、どうしても優秀な学生で世界に通用するというようなことになってまいりますと、まだ誤差もありますが２６４０地区内にあっても中国の方、大学でいうと名前を出したら悪いかもしれませんが、和歌山大学、大阪府立大学、和歌山医科大学というような学生がやっぱり非常

に優秀でございました。
　しかし米山奨学会の考え方としましてはやっぱり反日感情がある中国でありましても、郷に入っては郷に従うという言葉もありますように非常に日本を理解して帰られて、それがまた日本と中国の架け橋になってもらえる。河合さんもいろいろおっしゃいましたが、三大課題とはかなり学生の考え方も変わっておると思いますので、できる限り私どももいろんな面で注意していきますが。２６４０地区にしましても東南アジアの数カ国と中国、台湾、韓国が圧倒的に多いというのが実情でございます。
＜那智勝浦ＲＣ＞
　先ほど新宮さんの詳しいお話がございまして、私のところの委員長も税理士でございますので、是非帰りましたら福田さんのおっしゃってた税法上のことを、会員の皆さんに伝えるよう私の方からお願いしようかと思っているところでございます。
＜串本ＲＣ＞
　串本の小寺でございます。今言われた玉置さんのお話は、１人あたりの平均寄付額をおっっしゃられるわけですね。１人の方が３０万くださっておるので、それに私どもがぶらさがってあやかっておるような次第でございます。会員が１０名と非常に少ないですので１人あたりが際だっているということ、こういうわけでございます。
＜白浜ＲＣ＞
　去年も米山のＯＢの方に例会に来ていただいていろいろお話を伺ったわけですけども、その時は米山の理解も深いんですけど、ちょっと時が過ぎましたら元に戻りまして、１人のあたりのいただくお金もまだ平均に達しておりません。もう少しネジを巻いてまいりたいと思います。そして話変わるんですけども、去年の秋でしたかＪＣの講演が文化会館であったんですけども、金美齢さんという台湾のお方なんですけども、その方のご主人が元米山奨学生でして講演の途中でも大変米山の奨学金にお世話になったということを会場でお話なさっておられました。
＜田辺はまゆうＲＣ＞
　田辺はまゆうロータリークラブの中野でございます。私どもも１人頭の分がなかなか試算はできておりませんが、一応昨年度からニコニコ箱の横にボックスを儲けまして、米山と財団とのボックスを置きましてポケットに入っている小銭でもいいからとりあえずということで、それを今見越している最中でございます。以上でございます。
＜田辺東ＲＣ＞
　先ほど申しあげましたけども、私ども１人受け入れておりまして、その為か以前からわりと米山の受け入れカウンセラーになっておりまして地区の目標額を大抵クリアしております。
　これからも受け入れることによって米山の理解を受けて皆さんに寄附をいただくということがやりやすくなったということでこれからもまた受け入れをして行きたいと思っています。
＜田辺東ＲＣ＞
　はい。お陰さまで、いろんな事業ありましたらその都度寄りまして、お酒飲んだり花火大会したり、彼ら参加してくれています。
＜塩路良一＞
　一応寄附増進担当ということでなっておりますので、皆さん方の成果、私の成果になるのかもしれません、そういう意味ではよろしくお願いします。また新米の地区委員でございますけども、皆さん米山の担当ですから、米山は当然集めていただきたいんですけど。やはり財団もございます。財団が長男でこちらが次男というようなことを言っております。それから、普通寄附金、特別寄附金というのは皆さん十分ご理解いただいておりますでしょうか。通常、普通寄附金は強制的に１人いくらとだいたい６，０００円というのが多いですけども、それは、皆さん方のところでは会費等一緒に請求しておられるんでしょうか、それとも個人からは取らずに会費のうちからクラブが出しておるんでしょうか。
　もしその後の方でしたら会費の方から出しているということを皆さん方委員長さんは会員に徹底しないと、こんなもんいつ出してるんやという方もあるかもわかりませんので、ちょっと尋ねてみましょうか。皆さん方のクラブはどんなにされてますか？
＜新宮ＲＣ＞
　最近では会費から出しております。
＜塩路良一＞

皆さん会費からですか。実は御坊クラブもそうしておりまして、そうした場合、知らない会員もいるかもしれません。
<松下カウンセラー補佐>
いろんな資料、米山からの配布物資料、こういう決算報告、いろんなものが各クラブに必ず年度初めか、８月くらいに送ってくると思いますので、委員長さんなり会長さんなりできるだけ見ていただきたいなと思っております。クラブの事務局にあわせてしまってるというのが実情だと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。
<米田真理子>
じゃ、ちょっとお時間いただいて委員会の方からご相談したいことがありますので。
<河合学友担当委員>
今言い忘れました。今年の米山の学生達の動きはガバナーメッセージに写真で３ページ載せておりますので、見ていただくようにお帰りになったら会員の方々に宣伝していただきたいと思います。
<松下カウンセラー補佐>
活動のことですがこのI.M. １組の各クラブさんにはあまり留学生と組み合っていただく機会が少ない関係上２、３年前にも田辺ロータリークラブさんとか新宮ロータリークラブさんにお世話になって寄せてもらったことはあるんですが、地区としての米山委員会としましても今年度またそういうところから見ていただいてどうかなと、皆さんのご意見をちょっとだけ聞かせていただいて、もしご賛同いただけるようでありましたら、次次年度の村上さんとかいろんな方にお世話になったと思いますけど、そういうことを計画してみたらどうかなと私どもで思っておりますけどいかがでしょうか。
<津村寛司>
奨学生が我々のクラブへ来てもらって何をしてもらいたいか。
<松下カウンセラー補佐>
卓話とかまた皆様方の奨学生の考え方をロータリアンの皆様に伝えていくのにコミュニケーション取っていただきたいなと思っておるんですけど。
<津村寛司>
私も今年は来ていただいて卓話していただいたんですけども、大変いいですね。
<松下カウンセラー補佐>
それが一番、いろんなロータリアンとの考え方が統合出来ると思うんですけどね。
<津村寛司>
今は学生さんというのはわりと真面目な優秀な方が多いと思いますので、クラブへ来て３０分でも卓話してもうらうことによって、そういうふうな我々のやっていること、こういう人が育ったんだとか、こうやって勉強してもらってるというのが一番わかってもらえる機会です。
<河合学友担当委員>
僕たち今考えているのは全員連れてくる。一度田辺に全部やってもらったことあるでしょ。
<米田真理子>
全員でバスで寄せていただいてここも見学させていただきました。お祭りにも参加させていただいて。
<前窪パストガバナー>
お祭りとか闘鶏神社のお祭りだったと思うんですけど、それと２班に分かれたと思います。
新宮へ行く組と田辺でやってもらう組と２つに分かれました。
<河合学友担当>
あの時は半分田辺で降ろして半分新宮へ行って新宮でお世話になった。覚えてますよね？
<松下カウンセラー補佐>
そういうことにご賛同いただけるようでしたら、私の方ガバナーエレクトさんが地区の方々と相談して段取りしてみたいなと思っておるんですけども。クラブにご負担をかけるのは、その時の食事代くらいかと思います。
<前窪パストガバナー>
あの時は確か皆さんのご家庭でホームステイして２晩くらいお世話になったと思うんですけど。
<塩路良一>
結局クラブで見ておれば常に交流があるけども、寄附だけしてもらって恩恵がないからそういうことを企画してロータリーアンの皆さんに親しんでいただこうという企画でございますので、さっきちらっと聞いたのは高野山から龍神へ来て１泊してちょうど祭りと兼ねたらいいなと思って。

＜松下カウンセラー補佐＞
　留学生のこともあるんですが、参加しやすいような時期にやりたいなと思っております。
　年度でいいますと、今頃になると明日歓送会もありますし任期と入れ替わる時期でちょっと難しいので、やっぱり１２月までにそういうことを計画したいなと思っております。
＜米田真理子＞
　田辺東さんが次のI.M.のホスト。予定は決まっておられますか？
＜田辺東ＲＣ＞
　まだ何も決まってないです。
＜松下カウンセラー補佐＞
　これは地区協議会でほとんど決まってくると思いますので、それぐらいに段取りしたいなと思います。
＜塩路良一＞
　次の委員長さんにそのことを伝えておいていただきたいということです。
＜松下カウンセラー補佐＞
　こういう計画がありますよということだけ伝えていただきたい。
＜田辺東ＲＣ＞
　I.M.のですか？
＜松下カウンセラー補佐＞
　I.M.の時に、その時期ですが、今のような時期にI.M.が開かれるのでしたらちょっと不可能かと思うんですけども、ほとんどのI.M.は６組までは年度内に、１２月までに行われますので、そういう時でしたらうまくいくかなと思っております。
　今年もI.M.１組と２組だけがこの２月に入って、後は皆１２月までに終わっていますので。そこらはこれから田辺東さんなり、田辺の村上有司さん達と相談しながらやっていきたいと思います。
＜河合学友担当＞
　学生達の反響も非常によかって、喜んで帰りましたよ。
＜米田真理子＞
　地元の新聞にも掲載していただいて、新聞に大きく取り上げられました。
＜那智勝浦ＲＣ＞
　私はね、新宮で速玉神社と除福公園、除福の墓ですか、そこのところでみんな大変喜んでいたのが覚えていますね。
＜松下カウンセラー補佐＞
　昨年度は米山記念館へ１泊で行ってもらったんですが、継続の方につきましては毎年同じ所へ行くよりも、そういうような遠州旅行の方がまた隔年ごとにそういうことやったらいいかなと思って、１つ考えてますのでその節はよろしくお願いします。
＜河合学友担当＞
　初めてみたとロータリアンの方からそんな声もありまして、来た甲斐があったなと思いました。
＜米田真理子＞
　時間になりましたのでこれで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

情報・規定関係部門

【出席者】

カウンセラー	中村　幸吉
リーダー	上野山英樹
司会	村上　有司
セクレタリー	市木栄之助

＜村上　有司＞

I.M.1 組の情報・規定関係部門の委員会を始めさせて頂きます。今日の進行なんですがお手元にお配りしたプログラムに従って進めたいと思います。

情報交換の 5 番目を簡単に私の方から説明させて頂きます。規定審議会という名前は皆さんもうご存知だと思います。これは簡単に言えばロータリーの立法機関です。これは 3 年に 1 回アメリカのシカゴの近くで開くことになっております。これには各地区から役員が選ばれております。立法案というのにも 2 通りありまして制定案と決議案というのであります。制定案というのは R.I. の定款或いは細則また各クラブの定款の改正を伴う案件これを制定案と言い大変重要な立法案でございます。これに対して決議案というのは直ちに規則の変更には至れませんが、R.I. の理事会に対してこういう方向で改正してやり直せというようなことを命ずる立法案が決議案というものであります。そこに制定案と決議案の違いがあります。この規定審議会ができたのは 1974 年から立法機関として独立したわけであります。3 年に 1 回、今年開きましたから 2 年後に委員を選ぶから 2010 年ですね。

< 上野山　英樹 >

今年です。早くなりましたのでこの地区大会で決まりです。今ノミニーからお話ありましたように、歴史がそういった経緯をとってきておる。2001 年の規定審議会、特に 2004 年迄国際ロータリーの方向といいますか、規制が緩和される方向に流れてきているんです。出席の問題にしても緩和の方向になり始めている。また同時にロータリーの理念も薄らいできているというのが実情です。R.I. の方も、どっちかというとロータリーとは何だというと、奉仕団体だというような極端な表現になりつつあります。今回は規定審議会の結果は手続要覧に載るわけであります。白い部分というのは大体 R.I. 理事会の決議事項のようなものを除いているわけであります。ここが一番面白いといいますか、規約をフォローすると言いますかそういうものが随分載っておりまして、その部分が今度大幅に変わりそうであります。

< 村上　有司 >

手続要覧というのはこんな本で、2004 年に発行したものです。さっき説明抜かったんですけども我々ロータリークラブには定款と細則があるわけです。普通の会社とか団体と違って R.I. の方で定款というのは作られているんです。クラブで出来ることといったら名前を付けるのと、例会日をいつにするか、所在地をどこにするかとか、限定されたことです。そこへもってくると細則というのは定款の範囲内で自分達が自由に出来るので、総会でいろいろ決議をして改正する所は改正して頂いて各クラブの特色を出して頂いたらと思います。

それではいよいよ今回のクラブ定款の変更条文と概要というのを見ていただけますか。制定案の中で 7 項目を大変重要視しています。左側には改正後右側は改正前を書いていますから対照として見て頂いたらと思います。非常に大きな改正が第 5 条の四大奉仕部門ということ。先程リーダーの方から説明があったようにアメリカのアロハ理事会を中心にしているＣＬＰというのがどんどん進んできているわけです。第 5 条というのはそこに書いてある通り四大奉仕部門を謳いあげた条文であります。今後もし、これを否定するような動きが出てきたとしても、R.I. の理事会とかだけでは出来

なくなってしまうことになるわけです。それから５条がここに入ってきた為に従前の条文が全部一条ずつ繰り下がってきます。次に７条です、今回の改正で社会奉仕活動をされている方であっても、会員として迎えることができます。もう一つ職業分類として財団学友という部門も作って間口も広げるし、内容的なことも広げていって、出来るだけ会員を多くしていこうという動きだと思います。

第７条で経済活動以外にも、ロータリアンの会員資格はあります。第８条で職業分類で社会奉仕という分類を入れて、種類を表せばいいということになってきたんです。

それから８条の第２節、何年か前に５人に増やしましたね、この時にも大論争があったわけです。一つの業種が５名を越えて６名になってもその人が学友として迎えられている場合にはかまわんというのがこの条文になるんです。

＜上野山英樹＞

ロータリー財団学友という職業分類はないわけですから。自分が持っている職業かもしくはリタイアしてたらその前の職業かになります。

＜村上　有司＞

次に第９条出席規定。この前の規定だと出席免除をされるのは、一つには労を執るＢ項目、Ａは若いが病気や出張で理事会で承認されたものとなっていました。今回は９条の第５節というところは本条第３節、３条Ｂ又は第４節の元に出席規定の免除をされた会員とこうなってくるわけです。Ｂ項目にあたる人は全部計算外になるからいいんですが、Ａ項目で出席義務を免除された人がおるクラブではその年度100％ということがなくなってしまうんです。

それから10条、会長ノミニーというのは３年前の改正で初めて認められた名前なんです。今度の改正で12月に会長ノミニーになりました、しかし会長ノミニーは会長として就任する前の年度の７月１日即ちエレクトが、自分の１年前のエレクトが会長に上がった段階で今度は自動的にノミニーからエレクトになるんですよと明確にしました。

11条の変更なんですが、メークアップを含むクラブ例会出席率を60％を50％に下げました。これも規定緩和の方向かと思いますが。

第12条第４節A-1です。R.I. 理事会によって提示されたガバナー補佐はこの義務を免ずるとなっております。

45分まわりましたのであと質疑応答の時間をとりたいと思います。

＜藤堂　俊隆＞

会費納入はその各自のクラブ、会長がきちんと管理すると思うんですけれども、まだまだ自分とこのクラブの中にこの時期になっても会費を納めてない人が数人おられます。昔だったら多分あったと思うんですが、会費の問題は各クラブで決めることなんでしょうか。

＜上野山　英樹＞

法的にはね。そうは言ってられません。本来は会費納入をもって会の存続になるので、督促はちゃんとしておくということは大事です。

＜村上　有司＞

三大義務の一つとして「会費納入」と「出席」「ロータリー雑誌の購入」がありまして、財政的な基盤というのは見過ごすことの出来ない大きな問題です。よく話合ってもらって事情が了解できれば何らかの対応をと思いますが、そんなにすごいもですか？

＜藤堂　俊隆＞

見たことのない会員さんも名簿に載っているし、理事会に出ている様子もないし。今おっしゃったように緩和されているような感じで、これはもっとひどくなるんじゃないかと思いまして。

＜村上　有司＞

正会員さんの場合には義務として会費を期間内に納めなければならないと思います。はまゆうさんは非常に会員情況が旺盛でク

ラブとしてもうれしいなというところはありますが。やはり入る時からきちんと納めてもらわないといけないです。
＜藤堂　俊隆＞
　それなんです。それを理事、役員の方に勉強会を常に持って頂いて、もっともっとロータリーの質が良くなるんではないかなと思うんですが。
＜村上　有司＞
　増強については質か量かというのがよく議論されていますが。私はやはり会員というのはクラブあるいは地区の宝だと思っております。入って頂いてからロータリアンとしての質を磨いて頂く方が良いと思います。
＜岩橋　修＞
　第５条の四大奉仕部門と昨今導入されておりますＣＬＰとの関係なんですが、負担を少なくするために簡素化して、効率的なクラブ運営をしようということが一つあったように、僕は思うんですけども、復活したということであれば、ＣＬＰの精神との整合性というのはどうなるんでしょうか？
＜上野山　英樹＞
　ＣＬＰについてはR.I.の理事会が出したクラブ活性案なんですよ。クラブが考えた活性ではないんですね。四大奉仕を取り入れた組織は当然整合性があるし、それが入っているからＣＬＰじゃないということでもないんです。地区としても四大奉仕の考え方を重要視しながら、クラブリーダーシップ案を進めて下さいということです。
＜村上　有司＞
　岩橋さんがさっき言われたように同じような思い違いをされていると思います。ＣＬＰというのはクラブ活性化案ですから、決して委員会を縮小せよとかそんなことじゃないんですよ。長い間やってきたそのままの委員会の組織でいいのかと言ったらそうじゃない訳で、これは減らそう、これは付け加えよう、ということでやっていかなければいけないのです。いろいろなパターンを考えてもらってやって頂いたらいいと思います。ただ、今回第５条で綱領を読んだら、奉仕部門ということで公認してしまいましたので、これを頭に置きながら例えば４つ５つの委員会に分類したとしても小委員会のどこかにはいれて頂くとか、そんな形で各クラブの組織を考えて頂いたらいいと思います。
＜上野山　英樹＞
　今の地区内のクラブも、2008年か2009年でおそらくかなりのクラブが、ＣＬＰという考え方を取り入れていくと思います。
＜村上　有司＞
　四大部門も定款の上で明示した、これを頭に入れながらクラブの活性化案も各クラブの特色を発揮しながらやって頂き、委員会組織もやって頂いたらと思うんですね。
＜上野山　英樹＞
　手続要覧の第１ページに四大奉仕が出ているんですね。新しい手続要覧では４ヶ所に出てくるんです。講評３か所そして序論に出る。やっぱり四大奉仕は大切です、ということをR.I.は認めざるを得なくなっているんです。
＜濵　修一＞
　関連してなんですけど、今後は例えばI.M.とか地区の会合の時にも四大奉仕部門は必ず委員会を開くということですね？
＜村上　有司＞
　それはまだこれからです。地区の委員会組織をどうするかということを、皆さんの意見をお聞きしながらになります。
＜濵　修一＞
　それを聞かせて頂かないと、クラブ委員会を組織するときに、我々のところももう20人ですので重複する会員、委員会が出てきますので。
＜村上　有司＞
　そこは勝浦さんでご検討頂いて、どこかへ反映するような形に入れて頂いたらいいんじゃないですか。
＜上野山　英樹＞
　ノミニーも考えて頂きたい。地区は必ずクラブに合わせるようにコンタクトとれると思うのです。
＜村上　有司＞
　ＣＬＰが各クラブの情勢に合わせてクラブの意向で作ってくれと言ってますから、地区に74クラブあります、最大公約数をとった地区委員会が出来上がってくるんじゃないかなと思います。だから呼び出しを受けた時にちょうど該当する委員会がないクラブもあると思います。その場合にはこれに関連したとこは、あなただから行っく

れよとか、そんな恰好で出して頂いたらいいんじゃないでしょうか。しかし社会奉仕活動はやっぱりやってもらいたい、社会奉仕委員会の定款の規定があるんですから。これに裏打ちされるような活動をやる委員会を作ってもらわないといけないということです。

日本の代表の方々がこれを一生懸命やった。四大奉仕という綱領にも書いているようなそんなことも否定するような案が出てきたから、これはロータリーが存続する限り絶対守らなければいけないと、５条を作った訳です。必ずしも四大奉仕部門という形でということではなくて主旨を受けて作って頂いたらと思います。

最後に総括的に質問ございませんか？リーダー最後に一言まとめて頂いたら。

＜上野山　英樹＞

短い時間でしたけれどもご参加ありがとうございました。いろいろ出ましたけれども、一応白い部分を一回見て下さい。かなり前回と変わってますから。クラブ委員長会議をまた改めてやりたいと思いますのでよろしくご参加下さい。

＜村上　有司＞

今日はありがとうございました。この後本会議を開きます。

基　調　講　演

『高校野球の歩み』

講　師　財団法人日本高等学校野球連盟
会　長　脇村　春夫

今日は脇村奨学会の理事長とか高等学校野球連盟の会長という立場ではなく大阪大学の大学院生の報告ということで気軽にお聞きいただければ幸いかと思います。

このような栄えあるロータリークラブに講演させていただくこと、大変光栄に存じております。

お手元の高校野球の歩みというレジメがございます。それからもう一つ、高校野球の歩みの付属資料というものがございます。この２つに基づいてお話をさせていただきます。

それではレジメの１ページからです。初めにというところで、最初に、今日の日本の野球人口ということで、日本の野球は左側に硬式のピラミッド型の野球、ピラミッド型というのは高校の野球が、これはちょっと古い数字ですが１５万１，０００人という硬式の野球と、右側に軟式のひょうたん型の野球ということで図があります。

今度ロータリークラブで、甲子園の方にも出られるということでありますが、まさに軟式の社会人クラブというところでみなさんがたやっておられるわけで、こういう軟式というものがあるのは日本だけでございまして、しかもこういうふうに社会人のところまでずっと続けられるというのが、サッカーとは違う大きな特色でございます。

それでは、野球界の団体組織というその次の図でございますけども、これが日本野球界というものがそれぞれの団体で構成されているということ、左側の方に全日本アマチュア野球連盟と、その中に学生野球協会、日本高等学校野球連盟もこの学生野球協会の中に入っております。右側が全日本軟式野球連盟ということでございますが、これが野球というのがそれぞれの団体によって構成されているというのが、歴史的に、今日まできていて、こんなバラバラな連盟じゃなくて一本にしたらどうかと、いろんなご意見もいただきましたが、やはり歴史的にこのように連盟が違っているというところが一つの大きな特色でございます。

３番目、日本の野球の発展の流れとその特色ということで、明治５年に始まって、高等学校の野球というのは、夏の大会が大正４年に始まっておりますが、その前に早慶戦が明治３６年ということで、そこから六大学リーグが大正１４年の秋、東大も入りましてやっております。

プロ野球というのが昭和９年に日本野球クラブというのができて、実際にプロ野球として試合を始めたのが昭和１１年ということで、日本の野球というのがこのようにプロ野球が最初ではなくて、旧制一高から始まったというのが大きな特色でございます。しかも、旧制一高というのはあくまでもエリートな学校でございます。そのエリート学校の選手たちが旧制中学校の野球を教えるというようなところで出発しているわけでございます。

今日は佐山先生がおられますけども、佐山先生は本当にアメリカの野球については詳しい方でございますので、また先生の方からアメリカの野球のお話を聞かせる機会もあろうかと思いますが、今日はアメリカの野球の話ではなくて日本の野球でございます。そういうことで日本の野球というのがエリートからスタートした。アメリカの野球は底辺から、ここにありますようにスポーツというのは気晴らしでございます。

それでは、戦前の旧制中学校の普及と発展というところでございますが、戦前の普及というのが、貢献者というのが先ほどもちょっと申しあげましたように、旧制一高、それから全国の旧制中学校、師範学校、商業学校にずっと伝わります。

商業学校の方が旧制中学校ができるよりもちょっと後ですが、そういうところから一高の野球の影響力というのが非常に強くでてくるわけですが、なんといいましても校長の熱心さと、この後からもでてまいりますけども、やはり野球の精神性、新武士道の精神による校風の刷新というようなところで、現在の桐蔭高校の野村先生とか、に愛知中の日比野先生、それから、鳥取中学、今、鳥取西の中学校の校長先生、こういう校長先生方が非常に一生懸命自分達の校風刷新ということで野球を始めました。当初の野球の発展として一番大きく貢献したのが、ミッションスクールでの米国人の教師による野球指導ということで、現在の神戸の関西学院、関学、大阪の明星商業とか、東京の青山学院とか明治学院、こういうところが、当初からミッションスクールの外人の先生方によって指導をうけた、それからもう一つは貿易校、貿易校といえば横浜と神戸でございます。

横浜は横浜商業、Ｙ校という名前で野球が非常に盛んな学校です。神戸は神戸商業、神戸一中、今の神戸高校ですけども、こういうところがやはり貿易校として外人のチームと試合したというところでございます。

それから、最後にみずの運動具店と、現在のミズノでございますけども、水野利八さんが野球大会というものを始めました。これが大正２年１９１３年に豊中のグラウンドで関西中等学校野球大会というのを開催しておりまして、夏の大会、全国大会が大正４年に始まるのは、この流れを引き継いで、朝日新聞社がやりはじめたというわけです。発展期の主要な出来事といいますのは、ここにずっと並べておりますが、大正４年に朝日新聞社の主催の豊中グラウンドで、現在もこの豊中グラウンドは記念碑が建っております。それから、選抜大会が大正１３年に名古屋の野外球場で始まります。これは毎日新聞社の主催でございます。そして、甲子園球場が完成いたします。

それから昭和７年に、中学校とか小学校とかそういうところが野球が非常に盛んになります。昭和の初めの時に軟式社会人野球とか全国少年野球とか大変野球が盛んになりまして、いろいろと問題がでてきたので、文部省から、当時、野球統制令ということで、野球の過熱ということを抑制をするわけでございます。

甲子園の試合の話題といえば、中京商業と明石中学の延長２５回、中京商業の吉田投手、明石中学の楠本、中田投手というのが大変有名な試合でございまして、現在は延長戦も２５回とかそういうことではなくて、１５回に制限されるようになりましたけども、その当時は延長戦はずっと続いたというわけでございます。それと、中京商

業、今の中京大中京の夏の三連覇というのが、この中京商業が明石中学を破った昭和８年に達成します。一昨年、駒大苫小牧が三連覇なるのではないかということで随分騒がれましたが、早稲田実業の斉藤投手によってこれが制覇できませんでした。

戦前の学生野球の行き過ぎに対する継承と規制というこれは教育的な見知から非常に応援団の過熱化ということで、早慶戦が中断されます。明治３９年から大正１４年まで、大正１４年の秋に六大学リーグが始まりますが、それまでずっと早慶戦が応援団の過熱によって中止されると、そのために早稲田実業も大会シェアを禁止すると。長野県下でも県立の野球大会が長野中学と松本中学の応援団の乱闘事件でもって中止されると、長野県は北と南と大変分かれておりまして、したがって長野中学と松本中学というのは、松本の人達は長野県といわずに信州県というぐらいですので、大変両方とも対抗意識が強いという県でございます。

野球害毒論というのは皆様方も初めてかと思います。明治４４年に東京の朝日新聞社が野球は害毒であると。何が害毒かというとこれは特に六大学の方で選手が非常に華美になるとか授業に出ないとか試験に対しても手心を加えるとか、それから野球はだいたい右手で投げますので右ばっかり投げているというのは体に悪いとかで、野球というのは教育上良くないからやめてしまえと、こういうキャンペーンを東京朝日新聞社がやるわけでございます。

これについて賛成したのが、一高の校長であった新渡戸稲造とか、乃木希典大将とか、なぜこの乃木希典がここに出てくるかというと、その当時明治４４年には乃木希典は学習院の校長でございまして、彼は剣道とか武道とかそういうものに非常に興味があって野球なんかには全然興味がなく、今日の文部省の指導要綱によりますと、今度剣道とかダンスが必須になるというようなことを言っておりますが、野球については全然彼は興味がなかったそうです。

それに反対して、野球擁護論者というのがここにあります。東京の日日新聞、毎日新聞、読売新聞が野球擁護論者として１年間ここでいろいろと論争するわけでございます。

それから、野球統制令、その当時の文部大臣の鳩山一郎が野球統制令を出しました。この野球統制令は、後からちょっと学生野球憲章にも関係します。敵国のスポーツでの野球の禁止ということで、昭和の１０年頃からだんだん軍国主義になります。

野球というのはアメリカのスポーツだし、アメリカと対抗するという日本の軍国主義という形からすると野球というものはよろしくないということで野球の禁止というものがでてきました。

当時は野球ということに対して随分反対する校長先生がおられましたし、父兄の方も野球は不良少年がやるものであるということで、自分の子供達に野球をやらせなかったわけです。

戦後の高校野球の発展ということで戦後の復活というわけです。まだまだ普及率も５０％以下ということでございまして、昭和２１年に全国の夏の大会があります。ちょうどまだＧＨＱが、占領軍が甲子園球場を占領しておりましたので、第１回の大会というのは西宮球場でした。平古場投手を要する浪商が堂々の優勝をとげたということであります。昭和２２年に春の選抜大会が、ここでちょうど、甲子園球場がこれで復活するわけでございます。

その当時は旧制中学で、昭和２１年の２月に全国の中等学校野球連盟というのが誕生して、２３年の４月に旧制中学から新制高校になった時に、これが高等学校野球連盟ということになります。佐伯達夫副会長ですが、一生懸命中等学校野球というものの連盟をお作りになったわけでございます。

去年は野球特待生の問題で随分自民党にも呼ばれまして、自民党からも、なぜ高野連は高体連の中に入らないのか、おかしいじゃないかと、入るべきではないかということを盛んに言われました。一度検討させていただきますとその場では言いましたけども、はっきり申し上げまして現在高体連の中に入るつもりはございません。

昭和２１年に学生野球憲章が制定されます。この学生野球憲章というのが野球特待生というものに対して規制をするという一つの大きな根拠になっているわけであります。昭和２３年に旧制中学校から新制高校

になります。旧制中学校は１年から５年生ですけども、新制高校は１年から３年ということで野球の選手の期間というものが遙かに短くなってきたということで、指導方針も変わってまいります。

高校野球の発展ですが、この辺になりますとテレビが普及、高校野球のファンが拡大するということでだんだん普及率が増大をいたします。普及率が向上するというのは、旧制中学校から新制高校に入る入学率もどんどん上がると、昭和３０年代の皆様方のご承知のとおり日本経済が成長するということで、学校の数もどんどん増え高校野球が発展するわけでございます。

ここにプロ野球との断絶というのが３１年の佐伯通達、昭和３６年の柳川事件というのがございます。３１年の佐伯通達というのはその当時日本の選抜チーム、選手達がハワイに遠征する時にプロ野球のスカウトが随分いろいろと小遣いをあげるとか、或いは昭和３６年の柳川事件というのは高校野球ではなくて社会人野球の柳川選手にプロ野球が無断で引き抜いた事件があり、断絶が始まったわけでございます。

昭和５３年から甲子園の出場校も全県１校制になります。大会の参加校数も非常に増えてくるということであります。４ページに移らせていただきます。

名勝負というのは皆様方もご承知かと思いますけども、徳島の板東投手と魚津の村椿投手の延長再試合ということで、板東投手が勝ちます。

三沢高校の太田幸司と松山商業の井上明のこの試合も大変有名であります。さらには、直接和歌山県にも関係あります、青稜の山下監督、箕島の尾藤監督の、この投げ合いということもこれは非常に有名であります。

一昨年の駒大苫小牧の田中とそれから早稲田実業の斉藤投手の決勝における再試合、翌日早稲田が優勝して駒大の３連覇がそこでもってなくなるというのがございます。

近年における高校野球の低迷ということで、来場者や入場者数が減り、テレビの視聴率もだんだん落ちてきているということです。それからやはり最近のサッカーの人気というものが、和歌山県はそんなことはあまりないんですけども、サッカーの方に野球部員がとられてしまう。それから私立と公立校の実力の差が非常に大きくなってきている。最近は、甲子園に行くのはだいたい７割ぐらいは私立で、私立は学校の宣伝ということで非常に力を入れている。従って監督もいい監督をひっぱって長く監督をやらせるということで公立校の力がだんだん落ちてくる。公立校がどうなっているかということを示したものですけども、表８のようにだんだん私立校の優勝回数が高くなってきているということが大きな特色になってきております。

高校野球は精神主義だと、教育の一貫だと言われております。日本の野球は一高から来ていると、そういう国家主義的な精神主義的なところからスタートしているというところでございます。

それを引き継いだのが飛田穂洲のここにありますような精神野球でございます。

礼に始まって礼に終わるというところもこの精神野球のところから来ているわけでございます。

今年慶応が春の選抜に出場いたします。一昨年の春の選抜も慶応が出場して非常に大きな話題を蒔きましたけども、今年も上田監督が出てきますけども、彼は盛んに「エンジョイ　ベースボール」ということを言っております。そういう関係であるべき姿という３つの輪、これが監督さんとしても野球の部長さんとしても、どうやってこれをバランスとるかというのが、つまり楽しみと勝利主義と精神主義というところの３つの輪が非常に大事だなということを、今監督さんも楽しみをいれなきゃいけないというふうにだんだん変わってきています。

最後に高校野球の明るい未来と今後の課題ということで、部員数が増加している。少子化にも関わらず部員数が増加している。なぜ増加しているのかというと１年生に入ったけどやめない、最後までがんばっている、それはやはり監督部長の生徒に対する指導もいいということじゃないかと思います。

和歌山県は、ご承知のとおり戦前戦後について野球王国を築いてきたわけでございます。第１期の黄金時代というのが和歌山中学、春選抜、夏の選手権ということで何回も甲子園に出場し全国優勝をしたという

ことで、和歌山中学の黄金時代です。

第２期の黄金時代が先ほどからの海草中学でありまして、海草中学は昭和１４年、１５年、特に昭和１４年、嶋投手が全試合完封、決勝、準決勝、決勝、ノーヒット・ノーランという大偉業をたてます。

第３期の黄金時代というのが箕島高校でありまして、これが春選抜優勝３回、夏選手権優勝１回と、特に昭和５４年の春夏の連覇という大変すごい業績を残したわけでございます。先ほどから出ております、箕島時代という一時期を尾藤さんがおられました。尾藤さんが監督をやめられた後、だんだん箕島高校も勢いがなくなってきたということで、そのかわり第４期の黄金時代というのが現在の智弁和歌山であります。

この智弁は、各学年１０名しか野球部の選手をとらないと、従って３０名という少数制主義でありますし、スポーツは野球部しかなく、智弁和歌山は県下でも有数な進学校ですが、進学校のクラスとは別にここでは野球の選手だけが特別な授業をやっている。しかも、立派な専用野球グラウンドがあるわけでございます。

ただ智弁和歌山も最近は優勝から遠ざかっております。この間、高島監督に智弁和歌山の力としてどういうふうに考えられますか？とお聞きしますと、やはり和歌山県の中学校の野球のレベルが落ちてきたと、指導者もだんだん変わってきていることが智弁和歌山としての部位にも影響しているんじゃないだろうかと、言っておられました。新宮とか新宮高校、田辺商業、御坊商校、或いは南部、日高、中津分校、田辺高校、こういうところが出場しております。春がわりに多いわけです。

夏は田辺高校と南部だけです。この時の監督は田辺高校は現在もやってます愛須監督、南部高校は今、田辺工業の方に移りました井戸監督がここでやっておりました。

田辺商業今の神島ですけどもこれは残念ながらあくまでも県代表としての二次席枠で甲子園には出場しておりますが、こういうことで選ばれましたし、今度古座高校と串本高校が一緒になりますけが、串本高校は硬式野球ですけども、古座高校は軟式野球として過去２回全国大会にも出場しております。

和歌山県の高校野球の特色と強みということでありますが、簡単に説明させていただきますと、やはり監督の在任期間が長いということで、それぞれの監督さんの在任期間というところですが、この中では橋本高校の広畑氏が今年で３８年目になります。伊都高校の久保田氏なんかもそういうことです。非常にそれぞれの監督の在任期間が長い。

県立校ですと、他の県ですと、公立校ですから監督といえども他の学校に転校をさせるというような傾向になっておりますけども、和歌山県の場合にはわりにその点が自由にさせてもらっているといえるかと思います。

他の県の公立校の監督は教員が多いんですけども、ここでは職員以外、広畑氏以外にも桐蔭の河野さん、桐蔭の河野さんは今度やめましたけども、或いは箕島の尾藤さんこういう外部の人が監督としてやっているということでございます。

それともう一つはやっぱり和歌山県は連盟の組織が非常にしっかりしていると思います。

先ほどちょっと嶋清一のことを申し上げましたけども、最近山本暢俊先生という方

が、嶋清一のこういう本を出されました。これを読んでいただきますと、いかに彼が努力をしてきた、非常にナイーブな選手だったんで監督も随分それを直すために努力したと言っておりますが、残念ながら戦死した。古角さんが今でも彼のことを随分思っていろいろとこの取材に答えているわけでございます。

嶋清一が野球殿堂に和歌山県の一人として入ったということも誠に喜ばしい限りでございます。大変お粗末な話でございましたけども、一応時間がきましたのでこれで終わらせていただきたいと思います。

事例発表とフリートーキング　『ロータリーと地域』

司会　I.M. 副 S.A.A.		古谷　典子
コーディネーター		渡部　正義
発表者	新宮ＲＣ	植　　稔
	那智勝浦ＲＣ	森岡　一朗
	串本ＲＣ	矢倉甚兵衛
	白浜ＲＣ	片田　和雄
	田辺はまゆうＲＣ	坂口　富茂
	田辺東ＲＣ	谷峯　正美
	田辺ＲＣ	新藤　整市
ガバナー		平原　祥彰

＜渡部　正義＞

皆様こんにちは。朝早くからお話を聞いていただいて大変お疲れかと思いますがもう少しご辛抱願いたいと思います。田辺ロータリークラブの渡部と申します。進行係りを努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。本年度のテーマであります、ロータリーと地域。これはロータリーが地域社会の中でどのような形で貢献できているか、また、出来るかを考える機会に致したいと思います。約５分ぐらいの時間の中で各クラブが行ったいろいろな奉仕活動、その他を発表していただきたいと思います。それではまず新宮クラブの植さんよろしくお願いします。

＜植　　稔＞

今日は新宮クラブの２つの活動についてご報告したいと思います。ご承知のとおり、私たちのまち新宮市には世界遺産に登録されています熊野速玉大社がございます。大鳥居や朱塗りの神前などは荘厳そのものですが、この美しさを後世まで引き継いでいかなければならないと思っています。

そこで私たちは晩秋の枯葉が舞い落ちる頃に早朝例会を開催しまして、朝７時頃より境内一円をお掃除させていただいております。広い境内もクラブ員全員で協力してお掃除すれば見る見るうちに落ち葉もかき集められ、ゴミ袋も２、３０袋になります。８時頃になりますと、近隣の人々が散々個々お参りにこられますし、観光バスがぼちぼちと着き始めます。お掃除してきれいになった参道をお参りする姿を見ることは私たちにとりましてもうれしいことですし、またお参りをする方々もすがすがしい気持ちになるのではなかろうかと思います。私たちはこのお掃除の後、神殿にて正式参拝をさせていただきその後、朝食の熊野弁当を

いただき散会するのを例年の習わしとしています。

二つ目の活動は新世代委員会の活動により１月２７日に開催された、新宮ロータリークラブ杯ジュニアバドミントン大会です。この大会は、私たち新宮クラブが後援して行われているもので、この地方のバドミントンを愛する小中学生が最も楽しみにしている大会のひとつだそうです。三重県尾鷲市から和歌山県由良町までの地域の１４０名が参加して開催され、今年で１８回目になります。参加者の中には全国大会でベスト８に入った小学生もおり、会場は普段の練習の成果を発揮した熱戦が繰り広げられ１月の寒さも忘れるぐらい若者の熱気であふれてます。

私たち新宮クラブは健全な新世代の育成と、歴史ある世界遺産の継承の二つの活動を通して、みんなの為になるかどうか好意と友情を深めるかを実践する良い機会であり、常に４つのテストを念頭において地域の皆様に貢献したいと思います。以上をもちまして私の発表を終わります。ありがとうございました。

＜渡部　正義＞

ありがとうございます。本当に地域の皆様とともにまた地域の一つの活性化につながるような活動かと思いますし、これからもどうぞひとつよろしくお願いしたいと思います。それでは、続いて那智勝浦の森岡さんよろしくお願いします。

＜森岡　一朗＞

ロータリーと地域との関わりということだけに焦点を絞って考えてみました。

今、各クラブの皆様一番の問題点はおのおのどのクラブにもあると思います。那智勝浦ロータリークラブではやっぱり増強です。こちらに来られたクラブの中では大きいクラブもございます。一部のクラブには増強成功を収めてられるクラブもあるということでございます。私ども那智勝浦ロータリークラブは、昭和５６年には最大４６名のピークを迎えています。それ以降、どんどん減り続け今現在は２０名、半数以下です。さすがにこうなると、予算編成にいろいろと破綻を来しておりまして、幹事さんは毎年予算を苦労しながら組んでいるような状態です。もちろん景気が悪くなったということが、一番の原因と言えると思いますけれども、私はロータリーも地域でいろいろ認知していただくために、広報活動を少し怠っていたところもあるんじゃないかと考えました。私自身、入会させていただいた頃に、あるホテルでロータリーの会合がございまして、ちょっと早く着いたもんで座ってたところ、ホテルの従業員の方から「一体、ロータリーってどういう活動をしているところですか？」というふうな質問を受けました。もちろん入りたてであまり勉強してなかった私は、あたふたとしどろもどろになりながら答えたんですが、おそらくその方の心には、ロータリーの良さは一切届いてなかったと思います。そのことはロータリーに少しは興味があったという方、もしかすると将来ロータリーに対して理解者になってくださる方を逃したということでもあります。それに加え、もしかするとその方が将来ロータリーに入ろうかなという気持ちになってくれたとしても、それも私１人のミスで逃したことになったかもしれません。私と同じ轍を踏まないように、特に新しい会員になってた方はロータリーを紹介する言葉を自分で身につけて常々用意していただけたら幸いと思います。

またその頃、ロータリーの諸先輩方から本当のロータリーの理想的な奉仕とはどういうことかというのをレクチャーされました。その当時、勝浦港にゴミが非常に多かったんです。それで、ロータリークラブで港湾清掃をしたところ、その姿を見て他の団体、例えば婦人会とかＰＴＡとかがどんどん輪を広げて行ってくださったそうです。その運動が軌道に乗った時に、ロータリークラブは静かに身を引いて、誇ることなしに新たな奉仕先を探す、これが一番理想的

な奉仕の形というふうに教わりました。当時はなかなか理想的な話やなと思ったんですけど、最近私もすれてきまして、考えがちょっと変わってきました。

地域に認知していただくには、1、2年で身を引くのでなく、やはり継続した事業を行っていくのも重要だということを思います。

じゃ、お宅は何をやっているのということになりますけども、実は明日、南の国の雪祭りといいまして商工会主催の祭りがございます。那智勝浦町は暖かいところですから、雪合戦とか雪で遊んだ子供がほとんどないわけです。ですから、滋賀県の山の奥からトラックで何トンも雪を運んできて子供達にそり遊びとか雪合戦をして遊んでもらうと、その中で、ポリオプラスキャンペーンの活動をずっと続けてきました。今年で第１３回目を迎えますので、１２年間続いているということです。

当初は、ポリオって何？という質問が多かったんですが、最近は違うんです。インターネットでポリオでこういうことを見ました。これについてはどうですか？とか、こっちがどきどきするような、向こうの方がよく知ってらっしゃるんです。逆に、あー、そうなんですかといろいろ教えていただくことも多いような状況になっております。やはり一回だけではなかなかこういうことにまではなってないと思います。

勝浦の地域では、南の国の雪祭りの時のポリオ募金はロータリーであるということを少なくとも認知していただいているというふうに思っております。

最後になりますが、奉仕とは外に向かって誇るものではないということは重々承知しておりますが、地域でロータリーの活動を知っていただくとなるとやはりいろんな広報が必要であり、それが会員の増強につながっていくと思いまして今日の話にさせていただきました。宣伝宣伝と不快に思われる方もあろうかと思いますがご容赦いただければ幸いでございます。

＜渡部　正義＞

ありがとうございます。本当に我々の一番身近で、今世界の中でも日本が一番増強といいますか取り組んでおられる、また地区としても桎梏の方が大勢見えておりますが、本当に１組にも会員が大変減っているクラブがございます。本当にみんなでこれを一つ考えていきたいと思います。

＜矢倉甚兵衛＞

1. 串本町と２国の外国船との関係について

a. アメリカ商船レィディー・ワシントン号初寄航－ 1791 年（217 年前）　※ペリー提督と黒船４隻来航の 62 年前。

b. トルコ軍艦エルトゥール号遭難－ 1890 年（118 年前）

2. アメリカ商船初寄航について

a. この件は、元田辺ＲＣ会員でノンフィクション作家の佐山和夫先生が、『わが名はケンドリック』その他の著書で、大いに啓蒙して下さっています。

b. 串本町としては、大島樫野崎に日米修交記念館を建設し、PR 等しています。尚、日米修交記念館の建設・開館については、ご当地出身で元衆議院議員の故・早川崇先生から、殊の外ご指導ご教示を賜ったと聞いています。

c. 串本クラブでは、クラブ創立 20 周年記念事業として、JR 串本駅前にレィディー・ワシントン号ブロンズ像を建立。又、ジョン・ケンドリック旗争奪の少年野球大会を毎年開催し、本史実の PR に努めているところです。この大会に、田辺剛健少年野球クラブのチームが、毎年ご参加下さっています。

3. トルコ軍艦遭難について

a. トルコ軍艦遭難は、①大島樫野崎にトルコ軍艦遭難碑及びトルコ記念館があり、②５年前に串本町とトルコ大使館の共催で、大々的な慰霊祭が挙行されています。又、③串本町は、トルコの２つの町と姉妹都市締結をしています。

b. 年明けから、連日新聞及びテレビで海底に眠る遺品の引き揚げについて報道されているので、皆様もご覧になられていることでしょう。これはトルコ国から遺品収集に来られている特殊な事業であります。

c. 5年前の慰霊祭は、串本町とトルコ大使館共催の公式行事であり、我々は決議23-24の精神からも、今迄格別の関心を払ってはいませんでした。しかし3年前から、少しおもむきが変わってきています。

4. クラブの取り組みについて

a. 3年前に、樫野崎地元で遭難碑の清掃奉仕や定期的にお花をお供えしている奉仕グループの方々から、「5年毎の大々的な慰霊祭も結構だけど、9月16日の命日の日に、串本町の代表者が生花をお供えし参拝するよう、役場に進言して欲しい！」と私共会員が頼まれたことが、活動を始める切っ掛けです。

b. その後、クラブで相談し手分けして役場幹部に働きかけた結果、一昨年及び昨年の2回、当日午前10時に串本町長にご臨席、参拝して頂くことが出来ました。但し、参列者はせいぜい10人足らずです。

c. 一方で、1月下旬に行われる潮岬の芝焼きは、新春を飾る紀南の大きなイベントになっています。以前は早春の昼間、地元潮岬の住民が芝の育成促進の為に行っていたものを、串本町と観光協会等が素敵なセレモニー化に成功したからです。

d. 同様に、トルコ軍艦遭難日の9月16日の午前10時、亡くなられた五百数十人の御霊を悼む大切な追悼行事にすべく、串本クラブもお手伝いを始めているのです。

e. 本年9月16日はたまたま火曜日で、串本クラブの例会日に当たっています。それで、今年は特別に「移動例会」とし、現会員だけでなく元会員等ファミリーにも呼びかけ、出来るだけ大勢で参拝してはどうかと考えています。

5. むすび

a. トルコ軍艦遭難の日は、トルコ国側には不名誉で悲しい、しかし忘れられない日であります。そこで先ずこの日を「串本日土修交記念日」と名付け、日本とトルコとの友好親善の日として設定することを、串本町役場に提案しています。

b. 次に串本町の代表に加え、出来るだけ多くの串本町民が、500名余のトルコ軍艦乗組員の冥福を祈る為に、遭難日に参拝するように働きかけていきたいと思います。

c. そのような活動が、やがて在日トルコ人の方々も特にこの日に串本町大島を訪れ、更に一般観光客も集うようになっていけば素晴らしいであろうと期待をしています。

以上、現在の串本クラブの会員は10名で、人手や資金も掛けず会員皆で手分けし、9月16日午前10時のトルコ軍艦遭難追悼式を、地域の歴史を踏まえた国際的定例的なセレモニーに育てるべく、ささやかながら活動を展開して参る所存であります。皆様方も是非一度、串本町大島樫野崎にお運び頂きますよう、切にお願い申し上げます。多謝！

＜渡部　正義＞

ありがとうございました。会長自らご発表いただきました。会員が本当に少ない中、地域とロータリーとの橋渡しをしていただいていること大変よくわかります。それでは次、白浜の片田さん宜しくお願いします。

＜片田　和雄＞

白浜クラブは１９６１年に田辺クラブのご支援を受けて生まれましたが、今年で４７年になります。良くも悪くも、白浜は観光地ですから観光地という特性を持って白浜の発展の歴史とカラーで、活動してきたということになります。

振り返って見れば安心、安全、美化、環境保全、福祉と、いうキーワードで白浜の活動をくくれるかなと思っています。時間ありませんので全部は言えませんが少しだけ歩みとして、白浜は昔は小さな田舎町でしたが、お客さんが来られて急激な発展を

とげたのですが、急激に交通量が増加するとか、お客さんがいっぱい来るので犯罪も増えるだろうし、それからお客さんを迎える為に環境を整えていかなければということで、白浜ロータリークラブも、振り返って見れば重要な役割を果たしてきたなと思います。

例えば、観光地にゴミ箱だとかの設置、観光施設の遺跡などの説明板とかの本来行政がすべきでしょうけれども、時代が時代ですのでロータリークラブが寄贈する、例えばカーブミラーだったり白バイ、パトカーとかまで寄贈していてびっくりするわけです。そういうことで白浜の観光地としての魅力を整備してきたということです。

去年はもっと積極的に行政と関わっていこうということで、１９８０年にR.I.創立７５周年記念で温泉公園昔設置したのを足湯に改造して、白浜に訪れるお客さんに楽しんでもらおうとか、今年は平草原という高台に展望台を作るんですけども、ロータリーもそこでお客さんに来ていただいて風景を写真で解説するようなものを設置します。ロータリーは今まで先輩がやってきたことをさらに積極的に進めるということで関わっていこうと活動をしています。それも白浜町は評価していただいて、この間平原ガバナーと表敬訪問した際に、地方自治体というのは大変経済的に苦しいですから、本当にありがたいと、身にしみるというふうな言葉もいただいております。

いろいろ振り返って見て、これが最後の方に私が言いたいことになってくるんですけれども、創立からまもなく、保障委員会というのを、白浜ロータリークラブが作るわけです。保障というのは景勝地を保全するの保障ですけれども、ロータリーで、社会奉仕委員会の中に環境という言葉が出てきたのは、７０年代後半だと思いますが、創立の６０年代初期ぐらいには保障委員会が出来ていまして、それがいろいろリーダーシップとっていくわけです。

６７年にまちを美しくする運動を推進した結果、白浜保障会が出来ていたり、７１年に海を汚さない運動が、ロータリアンから声を発して、それが町全体に広がりを持つとか、ロータリー主導の運動がまちに広がったという経緯を見て、先輩の先見性を非常に関心したわけなんです。

考えてみれば、ロータリアンというのは町内会の役だったり商工会の役だったり、観光協会であったり、いろんな重要な組織の役員になってる。そのパワーというのがやっぱりすごいし、昔はそういうことをもっとアピール出来ていたから、こういう様な広がりのある活動が出来たのかなと思っています。

最近であればロータリアン主導と皆さんにわからないかもわしれないですけれども、暴力団追放運動だとかそういうようなことも白浜ではロータリアンが主導になって行ったと思っています。

締めも一応言っておくんですけれども、ロータリーは、アイサーブ、ウイサーブということを言われますけれども、やっぱりロータリアンはアイサーブが基本だと私は思っています。ロータリークラブというのは団体でももちろんやっていくわけですけれども、やっぱりアイサーブ、自分の職業、自分の地域社会に個人としてどれだけ貢献しているかということが重要なんではないかなと思っています。例えばいろんな会合に出ていくわけですけれども、やっぱりそこでロータリアンの人たちに会うんです、どこ行っても会うんです。それは他の人には我々の関係というものはわからないんですけれどもやっぱりロータリアンが日常的に、地域の課題に積極的に、参加しているということは、ロータリアンだったらわかるわけです。そのロータリアンが週に１回例会に集まって奉仕について学んでいる、勉強していくという、これほど地域にとって有益な集まりはないというように私は思うんです。そういうことがちょっと世の中にうまくアピール出来てないなと思うんです。

ですからロータリーというのは暇なおっちゃんの集まりだとか、金持ちの集まりにしたらあまり寄附額が小さいなと思うかもわからないですけれども、クラブで行う寄附なんかは、大きな事業されてる方だったらポケットマネーで出せるというようなこともあるかもわからないんですけれども、そんな大きな会社されてる人でもこれを何に使おうかとか、ニーズはなんなんだとか、若いクラブの会員に助けてくれよと言いな

がら、やっぱり奉仕を学んでいくわけです。だから、ロータリーというのは勉強の場であって、実践というのは自分が地域に出てどれだけ活発にするかということなんだろうなというように思います。ありがとうございました。

＜渡部　正義＞

ありがとうございました。白浜クラブも会長の片田さんがいろいろな地域との奉仕活動、またその他について詳しくお発言をいただきました。会員が少し減っております。大変だと思います。

はまゆうクラブの坂口さんお願いします。

＜坂口　富茂＞

私は、16 年前創立の田辺はまゆう RC、38 人のチャーターメンバーの内、現在も残っている 5 人の中の 1 人です。皆さんには、何も知らない私たち会員に、本当に親身になったお世話頂いたと感謝いたしております。

当時私は、会報委員長として創立総会・チャーターナイトにおいて、各代表の方々より、御祝辞を頂いたことを記録致しました。そのお言葉の中に、ロータリーの崇高な精神ともう一つ地域の活性化発展の為に尽力活躍して欲しいという強い願いでした。そして、今、時あたかも、国を挙げて道路特定財源のことで、地方が注目され議論もされております。

それで、日本の大都市と地方の人口とを比べてみると、大雑把には、半々ずつ、一方、日本の RC 数と会員数をみると、両者とも大都市が約 4 割、地方が約 6 割という数字で約 2/3 が地方という事になり、地方の RC 会員が挙って本気になればより大きな影響を日本の国全体に及ぼす事が出来る可能性を十分に持っているという結果が出ました。もっと具体的に、地域を良くする為にこうしたいそうしたい目的・目標を愛国心の強い、又郷土愛の強い日本の RC の会員が、明確にする事がお互いに大切だと思います。

そして、数年前の地区の I.M. でも集約されたように、会員一人ひとりの活性化、クラブの活性化が地域の活性化につながるという事であります。

地域に人が少なくなる、仕事がなくなる、事業の存続が出来なくなる、生活が出来なくなる。田舎を捨てて、都会へと出て行く。これらの現象は、江戸時代後期とよく似ているといわれ、今に残る地域の特産品のほとんどが、この人口低迷期にできたもので、その時何をしたのか。大ピンチの中、各地域は懸命に知恵を絞った。知恵を出して、経済の活性化に努力したいといわれています。

地域の崩壊を食い止めるにはロータリーの原点に戻り、100 年以上も積み上げてきた、ロータリーの人生哲学「超我の奉仕」や「職業奉仕」を今一度見直し、地元地域のために活用するべき時が来ているのではと考えます。ロータリーは、全世界、全人類の平和、生きとし生ける物そして、環境まで何とか良くしなければと考えている団体なら、なお更、地元で為すべき事が沢山あると思います。　どんなにしたら I.M. 1 組の地域が発展するのか、今日の会合だけで終わらずに、世界遺産の熊野地方の未来を考える機会を I.M. 単位で、今後作る必要があるのではと思います。これからもこの地域で生きていくには、どうしたらこの地域が再生して、活性化・発展するのか、今後も粘り強く考え、次世代につなぐ事が大切と考えます。各クラブに、地域活性化委員会を作ればどうかと思います。

何故なら、田辺はまゆうロータリークラブが創立される時の皆さん先輩クラブの方々の強い願いでもあったからです。そして考えてみれば、この事は、今に始まった事でなく、私達の先祖が何代にも亘って望んできた悲願でもあるのです。

広辞苑によると、悲願とは、悲壮な願い。仏・菩薩がその大慈悲心から発する誓願。阿弥陀仏の四十八願、薬師如来の十二願などの類という事で、千手観音菩薩を入れると、それどれ未来、現在・過去となり、熊

野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社につながり、熊野権現で総称される大きな悲願へとつながり、世界にも発信できる大きな宝を持っている地方と思うのですが、持っているだけでは駄目で、玉磨かざれば光なしという事で、一層、ロータリー会員一人ひとりの自分を磨く、自分の仕事を磨く事が大切と思います。

昨年、テレビで、聖徳太子を見ましたが、中国の隋からの日本の大危機に際し、太子は隋に小野妹子を遣わし、日本は野蛮な国でなく、十七カ条の憲法や冠位十二階を基に、治安の良い統治された理想の国・道徳的な国であるという事を示した有名な「日いづるところの天子、書を日没するところの天子にいたす、つつがなきや云々・・・」という有名な文を皆さんも聞かれたかと思います。

日本の生き残る道は、聖徳太子も為された良いとこ取りの精神、神仏習合の理想国、理想地域に、国際ロータリー第２６４０地区 I.M. 1 組の「熊野」がその姿に近づく事ではないかと思います。

＜渡部　正義＞

一番新しいクラブが大変格調の高いお話をしていただきました。本当にありがとうございます。それでは田辺東の谷峯さんよろしくお願いします。

＜谷峯　正美＞

平成元年（1989 年）から、今日まで田辺東クラブの社会奉仕委員会が「ロータリーと地域」という観点から、約 20 年間の活動を調べてみました。本日のテーマであります「ロータリーと地域」を意識して社会奉仕・職業奉仕活動はされていない、一面があります。田辺市が毎年実施しています、田辺湾クリーン作戦には一般の団体と同じように毎年参加をしています。それ以外に、田辺東クラブ独自と致しましては、創立 15 周年に国道沿い、新庄町の山長製材さん向かいの防潮堤に、ツツジを植樹・それから国道 311 号線の中辺路町の逢坂トンネル手前の、土手に桜・もみじの植樹をしていますので、今日まで毎年手入れに行っています。約 18 年間、直接地域住民の方々との接触はありませんが、地域の環境・通行者の皆様に快適な気分を持って頂くために奉仕をして来ました。新庄町の防潮堤は、新庄町の老人会さんが年に数回草刈の手入れをして頂いています。東クラブと致しまして、毎年肥料代金として数万円をお届けしています。又、中辺路町の逢坂トンネル手前の桜・もみじの手入れを地元の近露小学校児童さんと一緒に手入れを今日まで二回実施し、昼食を共にし、ロータリークラブとはについて語り合いを致しました。

近年、「ロータリーと地域」と言えば、世界エイズデーの街頭ＰＲ毎年参加をしています。南紀療育児童達を白浜サファリに招待を致しました、車椅子に子供達を乗せ押している、写真が見つかりました。環境問題に関する、標語を一般に募集をした事があります。地区のライラセミナーに当地域の若者達に参加をして頂きました。最近では神島高校の生徒さんに参加をして頂き、今日まで参加された方々には、例会日に来て、体験発表をして頂いています。20 年間約 60 ～ 80 名の参加者があったと思います。それから奨学生度で海外への留学生を送り出しています。平成 13 年 12 月 8 日に、日置川プロバスクラブが創立されています、これは 4 クラブの功績ですが、特に私共田辺東クラブの隠岐和彦会員の熱意で、本日のテーマ「ロータリーと地域」にの取った行動だったと思い浮かべました。20 年間幾つかの地域への物資の寄贈、プレハブ倉庫・大会旗・車椅子・鳥の巣箱・ワープロ・図書券・時計塔・望遠鏡・双眼鏡・プリンター・ゴルフセット・植樹等々の幾つかの地域に、諸団体に「ロータリーと地域」に添った事業だったと記録を見て感じ受けました。

私がロータリークラブに参画させて頂いた、34 ～ 5 年前のロータリークラブは、田辺東クラブの親クラブであります、田辺クラブの大先輩が語り掛けて頂いたのは、社

会奉仕・職業奉仕等々は・個人が地域への奉仕の心を持ってと、教わる事が多かったですが、今日ではそのような語り合いが、例会に於いてもあまり、無いのではないかと思います。以前なら私らの年代が若い方にロータリーとはと語り掛けているのを見受け致しましたが、時代の移り変わりですね。

田辺東クラブ会員の中に「ロータリーと地域」への思いを持っています案件は「ホタルを放流」してはどうかと提案があります。

＜渡部　正義＞

ありがとうございました。本当に短くたくさん言っていただきました。発表ありがとうございます。それでは最後になりますが田辺クラブの新藤さんよろしくお願いします。

＜新藤　整市＞

田辺クラブの新藤です。私はまだ入会８年なんですけれども、昨年度２００６年の８月、田辺市へ自動体外式除細動器ＡＥＤという器械を寄贈させていただきました。その時、社会奉仕委員長をさせていただきましたので、今回のこの機会をいただいたわけであります。田辺ロータリークラブは、創立５５年になりますけれどもこの発表にあたって周年誌を見直してみました。

見直してみますとその時代時代に即した奉仕活動、いろんな奉仕活動で地域に深く関わりを持ちながら貢献してきているんだなということを改めて深く感じましたので、今日はＡＥＤのお話の前に少し古いお話になりますけれども１９７４年今から３４年前ですけれども救急指定ポイント設置事業という事業を、簡単にご紹介をさせていただきたいと思います。

救急指定ポイントというのは消防車や救急車が緊急出動の時にその場所を簡単に明確に通報の出来る標柱のことでありますけれども、現在のように住宅地図も整理されておらないし、目標となるような建物も少なかった時代にはこの標柱によって緊急出動の際にスムーズに短時間で現場へ到着することができるようになったようです。この事業では３０年ほど前ですけれども、１５０万円という経費をかけて２５９本の標柱が山間部を含む田辺市内各地に設置をされました。それから後も、１８年後には町並みの変化や、不必要になった場所からの標柱の撤去や新設に、１００万円の経費をかけてまた整備をされております。それから最近では３年前、田辺市の合併に伴いまして、龍神、中辺路、大塔、本宮など通報の目印となるものが少ない場所に、９７本の救急指定ポイントの標柱が新設をされました。

この事業につきましては、３０年ほど前国際ロータリー意義ある業績賞という賞を受賞いたしまして、全国各地から田辺市消防署に問い合わせがあり、同じような事業を実施した地方都市もあるそうでございます。行政や地域の皆様にとって大変意義のある事業であったように思いますし、当時の会員の皆様の熱意と行動力に敬服をいたしているところであります。

さてＡＥＤのお話ですけれども、最近では駅や空港、公共の施設など多くの場所に設置をされておりますし、講習も行われておりますので、大半の方はご存じだと思いますが、ＡＥＤは心臓が小刻みに痙攣をし血液を全身に送りだせなくなった心臓に、電気的なショックを与えて、痙攣を取り除くという器械です。この器械は近くにあれば誰でも使用することができますけれども、１分１秒を争う事態に使用するものですから、事故が起こった場所の近くに、設置されていなければ、活用することができませんので、その普及はまだ十分とは言えない状態であると思います。

たまたまですけれども、１４日付けの紀伊民報の一面に県立公立学校のＡＥＤの普及率が４３．８％で全国平均を上回ったという記事が出ておりましたけれども、クラブ活動や夜間の社会体育で毎晩のように多く

の人が使用する学校施設への設置は、市の厳しい財政状況などもあって大変遅れておりました。２００６年の５月末に田辺高校１年生の男子生徒が部活動後に、突然死をするという痛ましい事故が起きました。この事故を受けまして県立高校へは県費によってＡＥＤが設置されましたけれども、周辺市町の小中学校への設置は皆無でございました。

社会奉仕委員会では、社会奉仕事業の一つとして、このＡＥＤの普及ということを目的として学校施設へＡＥＤを設置してはどうかなという計画をたてました。当時の坪井会長の英断とそれから理事、役員、会員の皆様方のご協力をいただいて４台のＡＥＤを市内の東陽、明洋、高雄、衣笠という大規模中学校の体育館へ設置をさせていただきました。この設置にあたりまして、教育委員会では病院から近い、もっと遠いとこに設置をしたらどうかと、いろんな議論があったようです。しかし、結果的には田辺クラブが寄贈した４台のＡＥＤがきっかけとなり、同じ年度であったと思いますが、田辺市では補正予算を組んで市内のすべての小学校、中学校へＡＥＤを設置いたしました。幸いなことにこのＡＥＤが利用されたということはまだ聞いておりません。この寄贈にあたっては私たちが少し先走ってしまったかな、という感はありますが、こんなにも早く田辺市の小中学校にＡＥＤが設置されたという結果を見たということは、地域の住民の皆様の安心、安全という面においてこれも大変意義あったと思っております。

＜渡部　正義＞

ありがとうございました。新しい事業、また継続的な事業と併せて発表していただきました。

それでは一応７名の各クラブの代表の方の発表を終わらせていただきますが、これから会場の皆様にフリートーキングを致しましてご意見をいただきたいと思います。一つよろしくお願いいたします。こちらから指名をさせていただきますが、新宮の脇村さんお見えでしょうか？

＜脇村さん＞

みなさんからご自由に質問あるものだと思って私の質問をあまり念頭に置きながら聞いたわけじゃないんですけど。会員が少なくて困った、それから継続か、ロータリーが指導的にやって引くんかなというのと、矢倉さんとこのようにトルコと米艦隊の親善うんぬんというようなこと。

ちょっと気になりましたのは私も常日頃気にしていることを１つだけ、それをみなさんで考えてほしいと思います。みなさんのロータリーへ参加したことはあまりないんです。過去に数カ所あります、ですがその時は奉仕とかいうものを中心の議題にして会合じゃなかった、しかし著名人の卓話があってそして食事してだいたい終わっておったと。今話ししてたら、奉仕活動に対するディスカッションが少ないんじゃないかという意見が、はまゆうさんからもあったような気がしますし、田辺東さんからもあったような気がします。ですから僕も常日頃注意しているのですが、今、奉仕活動というのは、ロータリーさんがやらなくてもたくさん奉仕活動する団体が生まれてきた。その中でロータリーはどんな奉仕活動をすればいいのかと、願わくばそのことが少しでも会員増強に結びつくような活動の仕方がないのかなと今思いながら聞いたのですが、その辺を皆さんからご意見あったら頂戴したいなと思います。ありがとうございました。

＜渡部　正義＞

ありがとうございます。どうですか、良い案がお持ちの方挙手、本当のディスカッションに一つしていただきたいと思いますので、どうぞ挙手いただけませんか。

それでは、那智勝浦の尾崎さんお見えでしょうか。

＜尾崎さん＞

那智勝浦ロータリークラブの尾崎です。どうぞよろしくお願いします。今日は各クラブのパネリストの方どうも素晴らしい発表ありがとうございました。各クラブ、その地域でしかないものやその地域にまつわることに関する奉仕活動を聞かせていただいて、非常に参考になりました。

それで、紀南の地域とその会員増強とかいう話なんですけれども、確かに地域になればなるほど、少子高齢化で、人口自体も減ってきている、その中で会員増強を、じゃ、どうしていけばいいのかということが、今

後考えていかなければいけないと思うんです。それで今年ロータリーのテーマは、「分かちあいの心」ということなんですけども、次世代のロータリアンにロータリーの心とはなんぞやというのを教えていくためには、どういうふうに説明していけばいいのかというのを、この際みなさんにお聞きできたらと思います。

＜渡部　正義＞

ありがとうございます。これもみなさんから一つこうしたらいいぞというような、ことはございませんか。これも記録にとどめおくぐらいになるんでしょうか。即、回答ありませんか。ないようでしたら、白浜の岩橋さんおられますか。

＜岩橋さん＞

白浜ロータリークラブの岩橋でございます。今の質問の中に各種の団体、社会貢献する団体が非常に増加してきたということでございます。その中で、ロータリークラブの地域貢献が、印象として薄くなってきたなという感じが私もしているんですけれども、やはりロータリークラブとしてのその辺りの地域との関わり方ということを、マーケティング的の方面からも考えていく必要があるのかなというふうな感じもいたします。限られた財源の中でいかに地域との結びつきをしていくかということが、システム的にもっと戦略的に、考えていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

＜渡部　正義＞

ありがとうございます。なかなか即答、こんな答え妙薬というんですか、なかなか難しいと思いますが、そういう意見もあるということで一つよろしくお願いいたします。田辺はまゆうの川本さんおられますか？

＜川本さん＞

私一昨年の１２月に入らしてもらって、まだ１年足らずで全くの素人みたいなもんで、ロータリーと地域ということで私、青年会議所の方で、６年前卒業し１２年ほどやらせてもらったんですけれども、ＪＣの方はかなり地域と密着していろいろ活動をしてきたんです。

今日ロータリーと地域ということで、お話を聞かせていただいて少しわかってきた部分もあるんですけども、青年会議所と地域という密接な関係とロータリーと地域という関係との違いというか、わかりやすく説明していただけるような方おられましたらその辺聞きたいんですけども、どうかお願いします。

＜渡部　正義＞

はい。今の件について即答といいますか、こうだというようなのを一つどうでしょう。

＜前窪パストガバナー＞

たぶん７クラブの方、全部済んでからの方がいいと思っていたんですけど、青年会議所も両方やってましたんで、私の方からちょっと。まず会員増強の話が主体だったんです。地区で私は増強に関してだいたい９年くらい関わっていました。右肩上がりの時は６年間、下がりだしてから３年間。なぜ増強しないといけないかというと、やはり自然源がだいたいどのクラブでも年間６％、それで勘定していただければ１００人あるクラブがどのくらいで消滅するか、増強しないとどのくらいで消滅するかが簡単にでます。６％ずつ欠けていけば減っていくという。それじゃどういう形で増強するのかということになりますと、やはり皆さんがおっしゃられたようにロータリークラブが地域社会でどれだけ貢献しているか、それを知られているかということがあると思います。

青年会議所とロータリーの違いと言われますと、そんなにたいした違いはないと思いますが、ＪＣは若いだけに現実に目を据えて即やります、今ある問題、だいたい皆それに取り組んでいきます。ロータリーはもう少し先を見ている、それが一番大きいのが新世代にどれだけ力を力点を置いているかということによって違いがわかると思います。

表現が少し悪いんですが、青年会議所は少し奥行きが浅い、なぜなら４０才で卒業しちゃうんですよね。時間がないんです。だいたい３０前後で入って、１０年くらいやれる。だから燃焼はできるんです。だけどロータリーは皆さん同じように死ぬまで、失礼ですけど。そこに長期構想というのがそれぞれ皆さんあって、アイサーブの中で私が今やる時、今は少し温存する時、それぞれ調整できるから続くんですね。全力疾走でそんなもの３０年も４０年もやれるわけがないんです。そこら辺を考慮にいれてうまく進んでいく、ご存じのように会長さんをされますとだいたいクラブなんて５人あったら動いていきます。

だいたい３分の１の方がその年度を運営しています、後の３分の１が言われたら動いてきます、後の３分の１はおおかた寝てる、これが多分ロータリーでしょう。だから逆に長続きする。だから、毎年役員を変えて起こしていくのが執行部ですから、だいたい寝てる人を起こしていく、３分の１をうまく回していくクラブがあまり人数減らないで維持できてきたのではないかというふうに思います。だから後は増強をどうするのかというと皆さん方のアイサーブの中でのヒューマニゼーション、人間関係以外ないでしょう。そんなもの公募したった来てくれるわけでもなんでもないし、自分がロータリーがいいと思えば引っ張り込めばいいんです。それしかないんです。そんないい方法なんてどこにもないですよ。自分がロータリーがいいんだと思えばだからなんとかしてでもロータリーやって一緒にやろうよと、ロータリーがいいから入ってくれるなんて人はまずないです。まず入ってみてよ、やってみてよ、じゃ、こんなもんでいいなとタイミングの問題です。

私が田辺で一番感心したのは５０周年の時のミュージカルでした。全世代が関係してますね。これは素晴らしいものが出来たなと、やっぱり田辺クラブというふうに、渡部さんそれがたぶん知っててやっているんだと思います。私は一番、田辺クラブで感心したのはその時です。これがロータリーの原点かというふうに思いました。その時４才から８０何歳までの方が作ってましたから、これがロータリーの一つの事業の原点かなというふうに思いました。

もう一つは私はロータリーはロータリーでなければできない奉仕というのは教育だと思います。今の義務教育、先生方に聞いて一体何を教えているですかと、一遍、皆さん学校へ行って先生方に聞いていただけませんか。義務教育で何を教えているか。おそらく明快な答えが返ってくる先生はいないんじゃないでしょうか。義務教育の間にその子供の一生を決める食べ方、生き方を、教えるんでしょ、そうするとその手段、手法として職業が必ずついてくる。その職業分類のあるのがロータリーだけです。いろんな団体ありますけど。そこに着目していただければ自ずと答えはでてくるのではないかというふうに考えておりますので、是非そこらへんを考慮して、増強もクラブの活性化も地域の活性化も、同時に進行していけると思いますのでがんばっていただければと思います。

＜渡部　正義＞

どうも前窪パストガバナーありがとうございました。川本さん、今のお話を一つ参考にしてこれから益々ご活躍いただきたいと思います。それでは田辺東の大友さんおられますか。

＜大友さん＞

前窪さんが古き良き時代とそれから厳しくなった時代をまたがって、やっておられるので大変ご経験が豊富だと思います。そんな意味で、私は、今必要なのは、ロータリーの活性化だと思います。地域の活性化、その前にロータリー自身が活性化しないといけないと思っております。先ほど、那智勝浦ロータリークラブの森岡さんですか、いろいろおっしゃいました、よくわかるんです。私も以前ロータリーは何をするところだというふうに、いろんな方から聞かれたことがあります。私は端的に慈善団体ですとこういうんですが、それはなぜだと言えば、極端な言い方で申し訳ないんですが、会員増強と寄附の追求で年度が終わってるような気がしないでもないわけでございます。

それよりも、恩師の理想を広めるために、仲間を増やすというそういった事の方が大切なことだというのはわかっておりますし、また財団にしろ或いは米山にしろ、その貢

献を果たすということは大切なことだというのは十分理解しておるつもりでございます。しかし、何か今、ロータリーの理念が、バックボーンといえるんでしょうか、職業奉仕の精神とか、いわゆる決議の 23-34 に示されておる社会奉仕、こういう指針による勉強だとか実践、そういう活動の幅がロータリーにはだんだん狭くなってきているなと感じます。現在多様化している世の中でございまして、ＮＰＯ法人なんかがそういう活動を見ておりますとロータリーの精神にのっとった立派な活動をされている団体もあります。また私事で恐縮ですが、私の関係しているＯＢ会、そこでも毎年多額の寄附、ユニセフだとかそういうとこでやっているわけでございます。そういうふうなことが、活動の幅を狭くしているのかなとそんな気もいたします。

先ほどパネラーの方々が言われたことはいろいろ考えさせられることが多いんですけれども、なんとかしていくということはそれぞれのクラブの問題かもわかりません。従って地域の活性化ということよりもロータリーの活性化を、今こそやるべきじゃないかと思っております。ロータリーソングに、それでこそロータリーという歌がございます。どうかそのように胸をはって言えるロータリーを目指して、この地区も指導をしていただきたい、またそういう指針を与えていただきたいとお願いをしておきます。

＜渡部　正義＞

ご発言ありがとうございました。田辺クラブの名誉会員の中西力三郎さんが見えております。中西さんは田辺ロータリークラブに長くおりましてもう２０年くらいなるかと思いますが、中途失明し全く今見えておりません。そういうことで正会員は席をおいていませんが、名誉会員ということで今見えておりますので、今どういうふうに感じておられるか、ご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

＜中西　力三郎＞

ご指名いただきました名誉会員の中西です。まずお礼をいいます。本日の会にお招きいただき本当にありがとうございます。

今、７名の方々のお話、それからいろいろ提案されたお話をじっとお聞きいたしました。５分か６分ということなんですけど、渡部さんにベルを鳴らしてくれよと、だからベルの鳴るまではお話しましょうということなんですが、４時３０分で今日は決まりということなので、あと約１０分かそこそこしかございません。率直に申しましょう。「雪が降る明治は遠くなりにけり」という亡人、訳誰かの俳人、りっぱな句でございますね、「雪が降る明治は遠くなりにけり」、私はこの大寒の日に、「大寒や昭和は遠くなりにけり」という俳句を私は作りました。脇村さんのお話はテレビから私お声を聞いてましたけれども、今初めて肉声のお声を聞きました。本当に目は見えませんけれども楽しく聞かせていただきました。

本題に入ります。本題のテーマは「ロータリーと地域」ということなんですね。７年前に平成１３年の時に、たぶん私はこういう会に他の女性の方と出席した記憶がございます。私は２０年間ロータリーにおりました。そして失明いたしました。そして、退会して２０年、約４０年の間私はロータリーという精神は私は私なりに持っているつもりなんです。しかも皆さんの好意によって私のようないわゆるものが、名誉会員というそしていろんな楽しいしかも立派な会員としての資格を与えてくれたことについて一日も私忘れたことございませんけれども、新宮さんから始まって、田辺のロータリーの７名の方々のお話を聞いておりました。私は、目が見えておって２０年間ロータリーの生活或いは奉仕していただいた時には新宮も行きました、勝浦も行きました、串本も行きました、白浜も行きました、そういう例会なりそれぞれの会合にそれぞれの委員長なり役員として出席させていただきました。目が見えなくなって田辺クラブ、はまゆうクラブ、東クラブ、白浜はちょっと御無沙汰しておりますが、地元の３つの例会にもときどきピンチヒッターとして呼ばれてお話を聞きました。今日はいろんなお話を聞いている中で、私は一時ロータリアンとして戻りました。会員の増強のお話がある、ロータリーとはなんだというお話があります。だんだんだんだん減っていくこと、活性化はどうするかということ、23-34 の社会奉仕の規定のお話もでました。職業奉仕のお話もでました。私は皆さんと

この感想をお話するのにはあまりにも時間が短すぎますから、私は中途失明で約２０年になります。失明したために私はロータリーを去りましたけれども、未だに４つのテストであるとか、平成２年に亡くなった榎本長平さんがガバナーの地区大会の時に、私が指名されましてロータリアンの心について、新入会員３年５年の皆さんの前でおこがましくも発表させていただいた記憶が生々しく残っております。

今ここで皆さんにお話する私の資格は、中途失明者である、２０年間は晴眼者である、２０年間は目が見えない世界におる、この２つの立場から今参加させてもらった感想を率直にお話いたします。私は障害者という言葉はあまり好きじゃないんです。しかし障害者に対して健常者、晴眼者という言葉がありますから障害者という言葉があるんです。私は幸いにも目が見えなくなって私自身も社会参加を心がけました。家の中にすっこんでるんじゃなしにいわゆる私たちの言葉の中でノーマライジェーションという言葉がございます。家の中で片隅にすっこんでるんじゃなしに、社会に参加して社会の出会いを考え学習をする、一般の晴眼者、健常者の方々とともに生活していく、明るい住みよい楽しい町づくりに参加するというのが我々障害者の務めなんです。

そこでです、ロータリーと地域また大きくコミュニティーということを考えてみますと皆さんはどうでしょう。私が晴眼者であった時に果たして障害者の立場を考えたことがあるかという反省を、私はするんです。初めて視覚障害者になって目が見えなくなった、その中で初めて今までみた以上に見えないものを痛切に感じました。

つまり健常者の世界と障害者の世界はロータリー、ロータリアンと地域と世界に置き換えることができるわけです。皆さんはロータリーとはなんぞやとかロータリアンはいかにあるべきかということについては、明るい奉仕の世界の中における言葉にしましてもあるわけです。時間が短くなりましたけれども、ロータリアン、ロータリーというのは今現実に地域社会にどれだけ理解されてるかということです、しかし地域社会はロータリー並びにロータリアンをどれだけ理解しているかということです。そのためには切磋琢磨して手をつないでロータリーはロータリーとして、ロータリアンはロータリアンとして地域は地域として、十分双方に学習し解け合うことが事実なんです。

私はロータリアンの歌の中に、にこにこ顔のロータリアン、近くでおれば声をかけよ、遠くにおれば手をふろうというんです。これはロータリアンだけの話じゃない。ロータリアンが地域、並びにコミュニティーの皆さんに笑顔であろう、手をあげよう、遠くでは手をあげて近くで声をだそう、これが大切だと思うんです。

いろいろ感想は山ほどございますけれども、本日は、参加させていただいて本当に改めて、私は私として障害者として地域にどれだけ何ができるか、また地域から何をしてもらおうというんじゃなしに、共々の住みよい明るい楽しいまちづくりのために、見えない世界の中で、見えているもの以上に見えないものを見つめて、ロータリアンの四つのテストの意識をまたは理想を心にしてがんばっていきたいと思います。

終わりに、今日は出席させていただきまして、皆さんのご意見をお聞きいたしまして、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

＜渡部　正義＞

中西名誉会員、本当にありがとうございました。まだまだお話が尽きないところでございますが時刻がまいっております。発表していただいた方、またフリートーキングでご意見をいただいた方、皆さん本当にありがとうございました。最後にまとめとして平原ガバナーより一つお言葉をいただきたいと思います。

＜平原ガバナー＞

皆さん大変長時間で、お疲れでございましょう。もうすぐ終わりますから我慢してください。発表いただきました皆さん、それぞれ地域とクラブをつないで、或いは地域のニーズに応えようとして、或いは輝くような伝統を守ろうとして、非常に努力なさっているということがよくわかりました。一つ一つ何をしているか、分量はどれだけか、多いとか少ないかとかそういうことじゃなくて、我々はロータリアンとしてせっ

かくご縁があってクラブのメンバーとしてやっているわけでございますから、地域の皆さんと一緒に、より平和なより住みよい世の中を作っていくんだという非常に大きな目的といいますか、我々のターゲットがあるわけです。何をしても私は皆さんに喜んでいただけること、或いはいいことしてくれたなあと感謝してくれることであれば、私は中身は、自分たちの身の丈にあった甲斐性にあったことで、よろしかろうと思います。たくさんすることがいいことだと、たくさんお金をかけることがいいことだとい考え方ではなくて、自分たちが誠心誠意地域の皆さんと一緒にやるんだ。そのことがまた来年もその次もエネルギーを蓄えながら奉仕をすることによって、元気になりながら続けてやっていける、そういうスタイルでないと一生懸命にやってしんどくなってしまってちょっと休もうかと、これでは地域の皆さんのご希望に応えていないことになってしまいます。一つ一つのプロジェクト或いは進め方については、私の立場から申し上げることはありませんが、基本的なものの考え方をはっきりしようと、私はこの世の中には自分の居場所に満足していない人がほとんどだろうと思うんです。非常に成功したとかうまくいったとか、私は一生人生これで満足だという方は非常に少ないだろうと、で、成功した、俺はうまいことやったんだという成功体験をお持ちの方も非常に少ないだろうと、これ言うたらあかんかったとか、これなんとかしてここまでせんならんとか、そういう方がほとんどではないかと思うんです。そういう人たちを一緒に建設をしていく、よくしていくということをしようと思えば、まず我々がこういうことを考えたらいい、小さい力であっても或いはそんなに派手なことでなくっても。たらいの中に水をいっぱい張った、その水を回そうとする、箸一本で回るだろうか、同じ場所で同じリズムで続けるとだんだん水て回ってくるんです。我々はそれを草の根運動、或いはロータリーの持続性、或いは先見性、こんなふうに言うわけでございます。

パストガバナーの前窪さんはＪＣは４０で卒業だから急いでやらければいけないと、ロータリーは死ぬまでやから長期的な視野にたって活動を設計すればよろしかろうと、我々は教育という問題をもっと重視しようと、おそらくロータリーは教育についてタッチしてくるに一番ふさわしい団体ではないかとそういう主旨のご発言がございました。私は毎年毎年役員が変わっていくというのはなぜだろうかと、だいたい２万とか３万とか５万とかそういう地域の適正な場所にクラブをずっと作っていった我々の先輩は一体何を意図しておったのだろうか、そういう総合的な我々の先輩の苦労、実績、そういう努力に、よく今、我々自分たちがお金が少ないんでしたいと思うことができないとか、頭数がなかなか増えないとかそういう後ろ向いたといいますか、つらい話ばかりじゃなくて総合的に考えたらよろしいと。ロータリーも初めからそんなにたくさんいたわけでもないし、びっくりするような仕事を出来たわけでもない。

しかし我々は１２０万という大勢の人で一緒に例えばポリオについては２０年もやってきた。最近ではビルゲイツ財団が１億ドルの銭を出すと、あなた方の活動を十分認めましたと、しっかりやってくださいと、私もお手伝いしますと、しかし条件としてあなた方も１億ドル作ってくださいと、２億ドルにしてポリオをやっつけましょうと、こういう申し出があって我々はそれをお受けした。ビルゲイツは１億円出すのは簡単です。あの人は、何兆円と個人資産があるとかぎょうさん儲けるとかいっぱい言うてます。我々は頭数は多いんですけれども、１億ドルポッと出せるようなそういう状態ではないから、みんなで３年かかって１億だしてやろうとこう言うてるわけです。これはロータリアンの約束を守ろうという紳士な態度、我々２０年前に地球上からポリオをなくすんだということを宣言した。、非常に困難でちょっとになっているのになかなかうまくいかない。弾が飛んでいるような場所、道もない電話もない電気もないものすごくもめているような難しい場所、つまりポリオのワクチンを接種することが非常に難しい場所に残っている。しかし我々はそれをやりとげようとしている。これは、我々の非常に強い意志、皆さんとともに生きていくんだと奉仕をするんだと約束を守るんだというロータリアンの値打ちです。

我々のクラブも簡単に約束はしないけど、約束をしたら守るんだと、つまり地域の人たちに存在感のあるクラブになってくる。あそこに集まって昼飯食っている人たちは大したものだと、こんなせちがない世の中でも自分のことはちゃんとするし、人様のことも心配する、懐深い、俺もしっかり銭儲けしてあそこへ入れてもらえる人になりたいと。これ存在感です。我々は自分がしっかりやって、立派に胸はって誘えるようなロータリアンになって友達を誘うと。増強とか拡大とか活性化とかそういうことに私は近道はない、手品もない、地道にこつこつ実績をあげてやるしかない、不足をどっかに言うていくとこはない、そんなふうに思っております。

今年は公式訪問で皆さんに存在感のあるクラブになってくださいと、自分自身が楽しくないのに人を誘ったってなかなかうまくいかないと思いますから、まず自分たちが楽しんでロータリーやれるようにしましょうよと呼びかけてまいりました。今も同じ気持ちでございます。皆さんの熱心な発表を聞いて大変心強く思いました。こういう我々の内容をしっかり身につけてといいますか、理解をして明日からがんばってロータリー活動をやりましょう。ありがとうございました。

＜渡部　正義＞

これでこの部門を全部終了いたしました。本当に最後までありがとうございました。時間も本当にうまくいきました。どうもありがとうございました。

総　　評

ゼネラルリーダー　三軒　久義

閉会式までお残りいただいて本当にありがとうございます。当２６４０地区の最後のI.M.をこのように盛大に行われましたことを心からおめでとうとお祝い申しあげたいと思います。本当に立派なI.M.だったと思います。かつてはI.G.Fと言われまして、１９８１年までの手続要覧には載っておりましたが、I.M.となって全然やっていない地区もありますが、我々の地区ではずっと続けて、このように親睦と勉強、情報伝達を兼ねてやっております。

今日は中西名誉会長さんにも花を添えていただきまして、我々本当に晴眼者といえるかどうか、目が見えない人のことが全然わかっていない、或いはロータリー以外のことはわからないということを教えていただきました。今日の脇村先生のお話、実は私は昔の大洋ロビンスのファンでございまして、今は横浜ホエルーズになっていますが、真田選手は大変好きでした。そのお話もうれしく聞かせていただきました。パネルディスカッションも大変すばらしいものでした。おそらくパネラーのかたはまだまだしゃべり足りなかったかと思いますが、前窪パストガバナーもおっしゃいましたが、特に事前会議の時にロータリー財団に中島治一郎パストガバナー、米山に前窪パストガバナーのご指導を得ました。特にフレッシュ会員には、成川パストガバナーのロータリーの歴史について詳しくお話いただいて大変勉強になったと思っています。パネルディスカッションの時にご質問がありましたが、実は私はロータリーとはなんぞやと聞かれました時に、私は自分の職業倫理を向上さすことを目的として週１回集まっている団体であって、そこで思いやりの心と助け合いの心を学んでいると、その手段として奉仕活動をいろいろ行っておりますというふうに申し上げています。私はそういうふうに理解をしております。ＪＣとの違い、ライオンズと違いますが、彼らは奉仕を目的としているクラブだと私は思っています。私どもロータリークラブは奉仕は目的じゃなくて手段であると私は理解しておりますので、できる範囲の奉仕をやればいいと、その奉仕活動を通じて自分自身を或いは職業倫理を高めていくというふうに私は考えております。また間違いがあれば教えていただきたいと思っております。

最後になりましたが今日ホストをしていただきました田辺ロータリークラブ、特にI.M.の委員会の古久保委員長を初め皆様方には本当に心から御礼申し上げこの大成功を感謝して私の講評とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

謝　　辞

ガバナー　平原　祥彰

I.M. は最近なかなか盛り上がって中身のある運営ができない、難しい。まず出席していただける方少ない、途中でいなくなってしまいまして司会者は難儀する。そんなことを何回も見てきましたので、私は全くは心配といいますかうまくいけばいいのになとずっと思っておりました。少なくはなりましたですけど、一人一人お残りの顔の目つきが違う。べんちゃらではありません。お帰りになりまして自分のクラブを代表して今日の感想をみんなに話をしてみんな元気になるように、しっかりやるようにみなさんからどんどん情報を発信してほしいとそんなふうに思います。

ホストをしていただきました田辺ロータリークラブの諸君には心からみなさんとともに感謝いたしましょう。ありがとうございました。

次回ホストクラブ紹介

ホストクラブ会長　荷稲　　實

次回ホストクラブ田辺東クラブ会長愛須勝章さんよろしくお願いいたします。

次回ホストクラブ会長挨拶

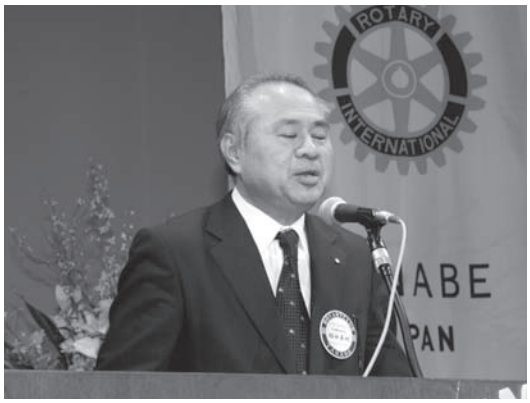
田辺東ＲＣ会長　愛須　勝章

田辺東ロータリークラブ愛須勝章でございます。一人で寂しいので三人で上がって参りました。私も I.M. こんなに長くというか中途で抜けずにいたのは初めてなんでございます。

本日は基調講演「高校野球の歩み」日本野球連盟脇村春夫氏のお話に始まり、渡部名コーディネーターの元、パネルディスカッション「ロータリーと地域」の成功裡に粛々と滞りなく進行され無事に閉会されることをお喜び申し上げるとともに感謝申し上げます。最初の荷稲会長の点鐘の木槌の頭の跳んだのはわざなのか未だによくわからないのではございますがお喜び申し上げ

ます。来年というか明日からは我が東ロータリークラブがホストでございます。けれども私もそろそろ眠たくなってきましたところでございますので、次期エレクトの栗山会長とI.M.実行委員長の小山さんをご紹介いたします。

閉会の言葉



I.M.副委員長　植田　英明

閉会にあたりまして一言御礼のご挨拶をさせていただきます。今日は朝早くからただいま５時少し前ですけれども長時間にわたりまして本当にご参加いただきましてありがとうございました。私ども準備をしてまいりましたが大変準備不足のところ多々あったかと存じます。それにも関わりませず、大変皆様方のお陰をもちまして盛大にそしてまた有意義なひとときを過ごせたと思います。本日は田辺市長様をはじめ、三軒久義様をゼネラルリーダーにお迎えし、平原ガバナー様、それからまた多くのパストガバナー様にもご参加をいただき本当にありがとうございます。終わりになりましたけども改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。平原ガバナーの挨拶にもありましたけれども、今日の会が明日から元気が出る、もっとロータリアンとしてしっかりやろうというふうな会になれば幸いだと思っております。今日の脇村春夫先生のご講演大変素晴らしく拝聴させていただきました。それからまたその後の「ロータリーと地域」という演題でのテーマ、まだまだたくさん議論の余地が残っていると思います。これはまた皆様方お帰りになられまして各クラブでお話し合いをいただけたらと存じます。本日のI.M.第１組インターシティミーティングここに閉会をさせていただきます。本当にありがとうございました。

〈点　　鐘〉

Ｉ．Ｍ．スナップ

WELCOME
インターシティミーティング
2007-2008年度
国際ロータリー第2640地区 第1組

INTER CITY MEETING
「ロータリーと地域」
ROTARY CLUB
TANABE
JAPAN
ロータリーは
分かちあいの心

パネルディスカッション
「ロータリーと地域」

ロータリーは
分かちあいの心

基調講演
「高校野球の歩み」
講師
会長 脇村春夫氏

INTER CITY MEETING
「ロータリーと地域」

TANABE
JAPAN

ータリーは
ちあいの心

テーマ「ロー

INTER CITY MEETING
「ロータリーと地域」
ROTARY CLUB
TANABE
JAPAN
ロータリーは
分かちあいの心

出　席　登　録　者

［新宮 R.C］　32名

大前　嘉助	小倉　　耐	瀬古　伸廣	木下　眞人
杉本　義和	横手　章郎	尾﨑　幸雄	勝山　康文
尾﨑　　勝	岩本　昭明	堀　　起佳	有田　佳治
梅村　　進	大江　紀明	田中　國雄	汐﨑まこと
久保　拓男	脇村　紀年	北尾　順二	貞宗　孝史
廣井　太朗	夏山　晃一	三好　清隆	西　　博之
関　　康之	植　　稔	福田　　功	東　　芳材
嶋本　宗平	温井　雄生	吉川　晴雄	中井　宏次

［那智勝浦 R.C］　8名

尾﨑　宜洋	濵　　修一	森岡　一朗	関　　制洋
山田　善清	武内　宗隆	玉置　泰作	坂野　洋南

［串本 R.C］　5名

矢倉甚兵衛	堀本　京子	角山　哲夫	小寺　孝佳
尾﨑　榮作			

［白浜 R.C］　13名

片田　和雄	岩橋　　修	岡本　重之	太田　豊和
堅田　真弘	久保木　弘	中村　　寛	野村　　慎
原　　嘉治	橋本　恵治	南　　勝弥	湯川喜太郎
足助　重賢			

［田辺はまゆう R.C］ 26名

原田　武俊	坂口　富茂	南　　尚次	南　　憲男
西嶋　明美	坂本　恵子	髙垣　傳次	辻　　諦淳
和佐　昌彦	矢田　篤司	中野　博行	樫木　秀行
藤堂　俊隆	川本　博司	菊池　正紀	北山　和弘
楠本　律子	松井　年晴	三谷　　実	光吉　直也
尾崎　博文	菅原　正章	菅根　　清	吉本　紳華
勘代　康範	蒲田　友士		

出　席　登　録　者

［田辺東 R.C］　36名

愛須　勝章	杉若　雅宣	浦地　　章	内芝　殷典
藍畑　春雄	吉田　和枝	雲丹亀好市	片井　　貢
佐田　一三	谷中　幹夫	工藤　孝之	後藤　信博
橋本　　隆	畑地　　誠	平尾　和次	泉　房次朗
北村　圭司	小山　　實	栗山　侑三	楠本　正明
丸山　博之	中川　文恵	中嶋　伸和	西谷　次彦
小倉　貞三	沖　　史郎	大友　淳男	阪本　邦夫
坂本　正人	橘　　博	武田　静也	谷峯　正美
谷中順次郎	上原　俊宏	渡口　眞二	山本　　亘

［田辺 R.C］　86名

新井　康司	榎本　長治	榎本　三郎	福本　義一
古久保和彦	古谷　典子	畑地　　浩	東　　冬彦
広井　永吉	廣本　喜亮	市木栄之助	伊賀　久記
稲田　静雄	稲田　太門	岩渕　孝介	岩本　典久
荷稲　　實	皆瀬　正夫	鎌塚　晋作	堅田　尚生
川内　　潔	木村　勝次	木村　頼文	木下　幾雄
近藤　新治	小山洋八郎	串　　博夫	串上　元義
松本　　哲	三前　　洋	三前　　剛	三谷　方外
三谷　昌平	宮本　恭平	森本　　譲	村上　有司
長井　保夫	長野　　羊	中松　村夫	成田　善一
野村　富也	野村　利治	小幡　淳美	小川　豊介
小野　　朗	大木　誠治	大川　敏彦	阪井　幹生
阪本　哲次	笹野　吉信	瀬戸　英男	柴田　隆至
新藤　整市	白井　　浩	寒川　真典	鈴木　和夫
田上　雅信	髙橋　武雄	竹本　達也	竹中　幸一
竹内　正巳	玉井　洋司	玉置　英人	田中　　陽
朱　　洋子	多屋　睦夫	多屋　平彦	多屋　平夫
坪井　敏行	辻　啓次郎	津村　寛司	植田　英明
植田　芳史	和田　茂生	脇村　　明	脇村孝三郎
渡部　正義	山本　博章	山本　忠生	矢野　好洋
横田　達夫	吉田　哲夫	吉田　　透	松原　正明
野田　恒司	福本　雅彦		

中西力三郎 名誉会員

2007～2008年度　I.M.　第1組

委　員　会　構　成

I.　　M.	委 員 長	古久保和彦
〃	副委員長	植田　英明
〃	幹　　事	木村　頼文
〃	副 幹 事	新藤　整市
〃	S.A.A.	小川　豊介
〃	副S.A.A.	古谷　典子
〃	会　　計	植田　芳史
ホストクラブ	会　　長	荷稲　　實
〃	幹　　事	玉井　洋司

総務委員会　**委員長**　新井　康司　**副委員長**　朱　　洋子
堅田　尚生　廣本　喜亮　広井　永吉　三谷　昌平　柴田　隆至

登録委員会　**委員長**　長井　保夫　**副委員長**　伊賀　久記
成田　善一　山本　博章　木下　幾雄　串上　元義　津村　寛司
小野　　朗　髙橋　武雄　多屋　平彦　坪井　敏行

会場委員会　**委員長**　中松　村夫　**副委員長**　横田　達夫
稲田　太門　脇村　　明　松本　　哲　松原　正明　三前　　剛
森本　　譲　木村　勝次　阪本　哲次　大川　敏彦　矢野　好洋
野田　恒司　福本　雅彦

接待委員会　**委員長**　渡部　正義　**副委員長**　野村　富也
榎本　三郎　福本　義一　畑地　　浩　三前　　洋　村上　有司
長野　　羊　阪井　幹生　鈴木　和夫　多屋　睦夫　川内　　潔
吉田　　透　脇村孝三郎

交通委員会　**委員長**　笹野　吉信　**副委員長**　瀬戸　英男
岩渕　孝介　皆瀬　正夫　近藤　新治　宮本　恭平　大木　誠治
竹内　正巳　田中　　陽　和田　茂生

記録委員会　**委員長**　竹本　達也　**副委員長**　稲田　静雄
市木栄之助　岩本　典久　小山洋八郎　三谷　方外　野村　利治
白井　　浩　多屋　平夫　寒川　真典　竹中　幸一

救護委員会　**委員長**　辻　啓次郎　**副委員長**　山本　忠生
東　　冬彦　串　　博夫　小幡　淳美　玉置　英人　吉田　哲夫

唱歌委員会　**委員長**　田上　雅信　**副委員長**　鎌塚　晋作
榎本　長治

事務一般　西中　正子

分　科　会	司会運営	司　会	セレクタリー
新入会員の集い	クラブ会長エレクト	新井　康司	朱　　洋子
ロータリー財団委員長会議	クラブロータリ財団委員長	小川　豊介	稲田　静雄
米山奨学委員長会議	クラブ米山奨学委員長	津村　寛司	竹本　達也
ロータリー情報委員長会議	クラブロータリー情報委員長	村上　有司	市木栄之助

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

「高校野球発展に期待」

脇村春夫さん講演

田辺

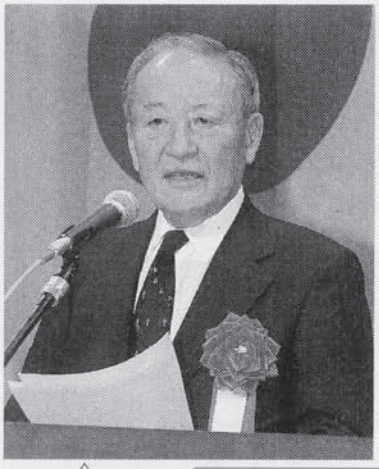
田辺ロータリークラブは16日、田辺市新屋敷町の紀南文化会館で紀南地方のロータリークラブが集まる会合「インターシティミーティング」を開いた。講師に招かれた脇村奨学会理事長で、日本高野連会長の脇村春夫さんが「和歌山の野球発展に期待したい」と語った。

田辺市以南の県内の7ロータリークラブが毎年1回、持ち回りで開き、クラブ同士の親交を深めている。今回は田辺ロータリークラブがホストを務めた。各クラブの役員や会員ら約200人が出席した。

脇村さんは「高校野球の歩み」と題して講演した。日本の学生野球、高校野球が始まった歴史を説明し、大学、旧制高校から小学校へ広まっていったと述べた。戦前には、学生野球が過熱して中断された時期や、少年野球が統制された時代もあったと紹介した。

県内の高校野球については「和歌山中(現桐蔭)、海草中(現向陽)、箕島、智弁和歌山が野球王国を築いていった」と話し、大正時代から現代までを4つの黄金時代に分類した。

さらに県内で野球が盛んな理由を解説。公立高校が県内の高校野球をリードしてきた背景や熱心に取り組んでいる点、監督の在任期間が長いため長期的な指導方針が立てられることや組織がしっかりしている点などを挙げた。最後に「和歌山県で、これからも高校野球が盛り上がっていくことを期待したい」と締めくくった。



△高校野球の歴史や発展について話す日本高野連会長の脇村春夫さん（田辺市新屋敷町の紀南文化会館で）

2008年2月19（火）　紀伊民報にて掲載

ロータリーソング

奉 仕 の 理 想

奉仕の理想に　集いし友よ
　　御国に捧げん　我等の業
　　望むは世界の久遠の平和
めぐる歯車　いや輝きて
　　永久に栄えよ
　　我等のロータリー　ロータリー

手に手つないで

手に手つないで　つくる友の輪
　　輪に輪つないで　つくる友垣
手に手　輪に輪
　　ひろがれ　まわれ　一つ心に
おおロータリアン　おおロータリアン